LION

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

JANUARY 2015 WWW.THELION-MAG.JP

ライオン誌（毎月20日発行）第57巻第7号 2014年12月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズ新書／ライオンズ文庫

ライオンズ新書01 ライオンズ力を高める

ライオンズクラブの歴史や組織からクラブ運営の全般までを、分かりやすく系統的にまとめた。1983年に刊行した『ライオンズ スピリット』の後継書。

新書判 224ページ 1部500円･送料実費
※50部以上ご注文の場合、送料無料
（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引
100～499部＝1部450円／500部以上＝1部400円

ライオンズ新書02 LCIF早分かり

ライオンズクラブ国際財団の目的やその仕組み、寄せられた献金がライオンズの人道奉仕にどのように生かされているかなど、LCIFの概要や意義をまとめた。

新書判 176ページ 1部400円･送料実費
※50部以上ご注文の場合、送料無料
（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引
100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

ライオニズムよ永遠に

ライオンズクラブの創設者メルビン･ジョーンズの生涯を時代と共に活写した労作。

B6判 224ページ 1部800円･送料実費

ウィ･サーブ

日本にライオンズクラブが誕生した1952年から2002年まで、日本ライオンズ50年間の歴史。

B6判 332ページ 1部800円･送料実費

『ライオン誌』創刊号復刻版

1958年創刊の『ライオン誌』日本語版を復刻。誌面から草創期の活気がひしひしと伝わってくる。

B5判 68ページ 1部300円･送料実費

ライオンズスクール･シリーズ

初級編･ライオンズクラブ入門

第3版第4刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円･送料実費

中級編･クラブ運営の基礎知識

第3版第3刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円･送料実費

上級編･リーダーシップを養う

第1版第5刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円･送料実費

※ライオンズスクール･シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

■お申し込みは巻末の注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。

LION MAGAZINE IN JAPAN
January 2015, Vol.57 No.7

We Serve CONTENTS

■2015年1月号
表紙
宮城県南三陸町
神割崎
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Joe Preston
Lions Clubs
International President

一人ひとりが
ライオンズのために出来ること

　時の経つのは早いもので、2014-15年度も既に半ばとなりました。皆さんがこれまでに成し遂げてきたこと、そして現在取り組んでいることの全てに、私は大いに誇りを感じています。私のテーマの根本的な焦点は、「奉仕を通じて誇りを高める」ことです。皆さんはそれに応えてくださり、記録的な数の奉仕アクティビティが報告されています。

「アスク・ワン（一人誘おう）」の呼び掛けにも応じて頂き、ありがとうございます。各自が少なくとも一人に声を掛けるというこの取り組みを通して、ほとんどの地域では新しく結成されるクラブが増加し、結成時の会員数も増えています。会員増強は順調に進み、指導者を発掘し育成する作業が強化されつつあることも明らかです。また、個々のクラブが効果を高めるために役立つツールも導入されました。しかし、世界的に懸念される一つの重大な問題があります。それは退会者の人数です。

　既存の会員が立ち去っていくに任せているなら、新会員を招請してもほとんど役に立たないでしょう。今から思えば、最初からもっと会員維持を重視すべきでした。しかし後悔しているだけでは始まりません。私たちは何とかこの問題に対処しようと、「キープ・ワン（一人維持しよう）」の呼び掛けを開始することにしました。これは、会員一人ひとりを積極的に参加させ続けることの重要性を強調する単純な概念です。

　新クラブの結成に関わることになる会員は決して多くはありません。また会員の中には、クラブ外の人に声を掛けて入会を勧めることを難しく感じる人もいます。しかし、既に仲間であるライオンを積極的に参加させ続けることなら、誰もが何らかの形で手を貸すことが出来るのではないでしょうか。古い名言に「人というものは、あなたがどれだけ親身になってくれるか知るまでは、あなたにどれだけ知識があろうと気に掛けないものだ」とあるように、仲間を歓迎し、尊重し、育て、励まし、助言するなどの努力は大切です。私たちが力を十全に発揮するには、会員維持への取り組みを強化する必要があるのです。

　私はライオンズクラブ国際会長として、「誇りを高める」ために全力を尽くすことをお約束致します。一人では不可能なことでも、全員で力を合わせれば必ず実現出来るでしょう。

Joe Preston

2014-15年度国際会長
ジョー・プレストン

※このメッセージの原文は国際協会公式ウェブサイトに掲載されています
http://www.lionsclubs.org/EN/about-lions/our-leadership/meet-the-leaders/presidents-message.php

ジョー・プレストン国際会長夫妻が来日し、11月7日に大阪のホテル日航大阪で334、335、336、337複合地区（西日本）、9日に東京のホテルニューオータニで330、331、332、333複合地区（東日本）の公式訪問が行われた。プレストン国際会長は「アスク・ワン（一人誘おう）」で奉仕の仲間を増やそうと呼び掛けており、就任時に「公式訪問で新会員の入会式に立ち会いたい」と話していた。これに応え、西日本公式訪問では新会員13人の入会式が、東日本公式訪問では330・A地区（東京都／塩月藤太郎ガバナー）の三つの新結成クラブのチャーター授与（写真上）が行われた。会長は新会員の胸にライオンズのピンを付けて、「皆さんは胸にピンを付けただけでライオンになるのではありません。人々のために奉仕した時に初めてライオンとなるのです。どうか立派なライオンになってください」と歓迎と激励の言葉を贈った。

公式訪問の前には、西日本では主にクラブ会長を対象とする国際会長セミナーが、東日本では女性リーダーが参加する国際会長との懇談会が開かれた。国際会長は自身の方針や考えを語り、参加者から投げ掛けられた質問に丁寧に回答していた。また、8日には京都を訪れて二条城を見学した後、335・C地区第4リジョン第1ゾーンのガバナー公式訪問にゲストとして参加した（写真下）。

SCENE

愛知県・豊田ライオンズクラブ

取材／砂山幹博　撮影／徳山喜行

まさかに備え、障害者を守る。家具転倒防止対策

近年発生した大型地震では、多くの人が倒壊した家具の下敷きになり、大けがをするか尊い命を失っている。

一般の家庭では、家具の転倒防止器具を取り付けるなど対策が講じられているが、障害を持つ人たち、特に一人暮らしをしている方々の住まいでは、その対策がほとんどなされていないというのが実情だ。かつて独居老人宅で同様の器具を取り付けた経験のある豊田ライオンズクラブ（87人）は、こうした状況を見過ごすわけにはいかなかった。

「大きな地震に見舞われた時、家具の倒壊を100％防ぐことは難しいけれど、対策次第で倒壊までの時間を延ばし、避難の時間を確保することは可能です。とはいえ自分ではなかなかその対策が出来ない障害者に代わって、私たちが家具転倒防止器具を取り付けるのです」と、成瀬義和会長は活動の趣旨を語る。

以前から親交のあった市内の特定非営利活動法人ユートピア若宮で器具の設置工事の希望者を募ったところ、6人が手を挙げた。事前にお宅を訪問し、タンスや食器棚、冷蔵庫など固定を希望する作業箇所を確認。必要な金具や器具を、クラブの負担で用意した。取り付け作業は1日がかり。午前中に1軒、例会を挟んで午後には五つのチームに分かれて作業を分担。最後にユートピア若宮でも棚や本棚を固定して活動は終了した。今年度スタートしたばかりの事業だが、クラブではメーン・アクティビティに据え、継続事業へと発展させていきたいと意気込んでいる。

SCENE

兵庫県・西宮さくらライオンズクラブ

取材／河村智子

地域の環境や福祉、防災を学ぶふるさとウォーク

地元では「えべっさん」と呼ばれ親しまれる西宮神社はえびす宮の総本社。新春の神事では一番福を目指し福男が疾走する境内に、この日は地図を手にした親子連れが次々にやってきた。

11月8日に開かれた「にしのみやふるさとウォーク2014」には225組685人が参加した。このウォークラリーを始めたのは西宮さくらライオンズクラブ（矢野正史会長／8人）だ。クラブ主催のふるさとウォークは、健康をテーマに「市民ハイキング」として1998年に始まり、回を重ねるごとに規模が拡大。現在は行政やNPO、企業など地域の15団体が連携して運営に当たっている。西宮さくらライオンズクラブの担当はスタートとゴールの受付だ。スタート地点では参加者にコース地図と「なるほど手帳」を手渡して送り出し、ゴール地点では「お疲れさま」と声を掛けて手帳にスタンプを押す。

参加者は12カ所あるチェックポイントに表示された海抜を確認し、参加団体が出題する三択クイズに回答する。男女共同参画グループからの出題は「日本の男女平等度は世界で何位？」という難問。お母さんは「平等っていうのはね、同じってこと」と子どもに説明し、一緒に答えを考えていた。

配布された「なるほど手帳」には、地域の史跡や地名の説明の他、平安時代の海岸線を記した地図や、避難場所を示すハザードマップが載っている。参加者はコースを歩きながら親子で語り合い、地域や社会について学んでいた。

ヒント
13年前（2002年3月）、兵庫県ユニセフ協会は誕生しました。
その頃　5歳になるまでに亡くなる子どもは
1年間に1200万人。
3秒にひとりでした。
5歳になる前の子どもが
命をなくす原因（2012年）
unicef
ユニセフは子どもたちの
命と健康を守る活動をしています。

CLUB REPORT クラブ・リポート

334-C地区

静岡県・富士宮ライオンズクラブ

世界に通用するアスリートが生まれることを願って

アスリートが高いパフォーマンスを発揮し、能力を伸ばすために欠かせない要素「心・技・体」。富士宮ライオンズクラブ（後藤芳会長／61人）は、スポーツをしている青少年と保護者を対象に、この三つの要素を学ぶアクティビティ「青少年育成事業 心・技・体」を開催した。

「本年度はチャーター・ナイト50周年の節目の年で、メンバーも意識が未来へ向かっていた時。これから先の未来を担う子どもたちのために何か土台作りをしてあげたい、と思ったのがきっかけです」（後藤会長）

スポーツをテーマにした講演会はこれまでも行ったことはあるが、実技指導を受けられるようにしたのは今回が初めて。しかも、どのスポーツにも共通する身体作りや、本番でも実力を発揮出来る心のトレーニングもプログラムに加えるという盛りだくさんの内容となった。

講演・実技には各分野のエキスパートを招いた。「心」のパートを担当したのは、メンタルトレーニングコーチの大儀見浩介氏。講演では、夢のような目標をかなえるには、普段の環境作りと小さな成功体験を積み重ねることが大切だと助言した。「体」は、トレーニングコーチの篠原俊洋氏が受け持ち、プロアスリートさながらのストレッチを披露した。「技」は、野球、サッカー、バレーボールと種目は限定されたが、それぞれ元プロ野球選手の石井貴氏、なでしこジャパンのエースストライカー大儀見優季氏、元バレーボール日本代表の杉山祥子氏が競技実演を行った。プロアスリートから直接指導を受ける機会はめったにないので、会場となった市内の大富士中学校には市内外の小中学生が２４０人、大人を含めると４１０人が集い、大盛況の催しとなった。

アクティビティの準備を進める中、ある兄弟との出会いがあった。生まれつき骨が折れやすい先天性骨形成不全症という病気のため車椅子生活を送っている、地元富士宮出身の土井健太郎・康太郎くん兄弟だ。二人は、障害者卓球でパラリンピック出場を目指しているが、それには大きなハードルを越えなければならない。

●投稿要領：
アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。送付先は57ページ下。

海外で行われる国際大会に出場し、ある一定のポイントを獲得していなければ、どんなに強い選手でも選考すらしてもらえないのだ。経済的に年に2～3回しか遠征出来ないという兄弟の事情を知った富士宮ライオンズクラブは、彼らを全面的にサポート

することにした。

　こうして、当初は青少年育成を目的として始まったアクティビティは、資金獲得事業も兼ねることとなった。そのため、会場には募金箱が設置された他、プロアスリートの協力で持参頂いたグッズのオークションが行われた。獲得資金は渡航費などに充てる予定だ。

（取材／砂山幹博　撮影／徳山喜行）

337-B地区

第2リジョン第2ゾーン（宮崎県）

1本のロープをつないで走る ふれあい健康マラソンと昼食会

11月23日、宮崎市庁舎の裏手にある宮崎市大淀川市民緑地には視覚障害者を乗せたバスが続々到着していた。この日は公益財団法人宮崎県視覚障害者福祉協会と国際視覚障害者マラソン協力会が主催する第28回視覚障害者ふれあい健康マラソン&ウォーキング大会当日。

宮崎には青島太平洋マラソンと同時開催される視覚障害者マラソン宮崎大会があり、その練習を兼ねて、このふれあい健康マラソン&ウォーキング大会に参加する人も多い。この日も宮崎市内だけでなく、日南、延岡、日向など、県内各地から参加者が集まった。

視覚障害者のマラソンには伴走者がつく。二人で一本の輪になったロープをつかみながら走るため、息を合わせることも重要だ。折り返し地点など方向転換が必要な所では伴走者が声を掛けて進むべき方向を示していた。この大会は3キロ、5キロ、10キロマラソンの部があり、それとは別にウォーキングの部が設けられている。マラソンは申告タイムレース。単純な速さを競うのではなく、出走前に自ら申告したタイムにどれだけ近づけられるかを競うものだ。これにより、体力に自信がない人や、健康のために走っている人も優勝を狙えるルールとなっている。

ライオンズクラブがこの大会に関わるようになったのは1998年のこと。当時結成2年目だった清武半九ライオンズクラブ（木原眞智子会長／18人）が選手のつけるゼッケンを寄贈したのが始まりだ。その翌年、337・B地区第3リジョン第5ゾーン（当時）での合同アクティビティとして、レースが終わった選手たちにバーベキューを振る舞う触れ合い昼食会を実施。

2009年に新編成の第2リジョン第2ゾーン（宮崎、宮崎中央、川南、新富、国富、高岡天ケ城、宮崎ひむか、田野、清武半九、高鍋舞鶴）となってからも継続事業として引き継がれた。バーベキ

ユーは肉がこげてしまうなど、走り終わる順番によって不公平が生じるため、現在では豚汁を提供している。

当日は開会式の後すぐに豚汁作りにとりかかる。そうしなければマラソンのランナーがゴールするのに間に合わないからだ。豚汁の具材はゾーン内の各クラブがそれぞれ分担して持参した。

この事業は一つのクラブでやるとなかなか大変だが、こうしてゾーン内のクラブで作業や金銭負担を協力し合うことで続けられている。参加者に楽しんでもらうのが主眼であるが、ライオンズにも良い影響を与えた。それは、メンバーが視覚障害を持つ方々と直接触れ合う機会を得たことだ。豚汁を渡す、レジャーシートの上に座ってもらう。そういったことから学ぶことも多い。この経験はライオンズのメンバーとして活動する上で重要なものになっているようだ。第2リジョン第2ゾーンのメンバーたちは、この事業の経験をそれぞれのクラブでの活動に生かしている。

（取材／井原一樹　撮影／関根則夫）

330-B地区

神奈川県・藤沢湘南ライオンズクラブ

車椅子利用者を江の島見学会にご招待

10月3日、藤沢湘南ライオンズクラブ(67人)は車椅子を利用する高齢者を江の島の見学会に招待した。これは35周年記念事業として始めたもので、今回で7回目となる継続事業だ。

今年も当クラブが主催をしたが、ゾーン内の各ライオンズクラブ・メンバー始め、NPO法人日本ケアフィットサービス協会所属サービス介助士25人と東洋大学の学生20人の総勢156人が午前7時30分に集合してくれた。その後は実行委員会の事前打ち合わせ通りに準備を進め、20人の招待者をお迎えした。

この日は快晴。山頂につながる江島神社の私道は前日に清掃をして奇麗にしておいた。当日はそこを介護用軽自動車で通り、皆様を山頂の灯台下までお連れした。江島神社では宮司による健康祈願のお祓いをして頂いた。その後は皆で灯台に上り、展望フロアからの景色を楽しんだ。招待した方から「わ～奇麗！来て良かった」という声を聞いた時は今年も継続出来て良かったと思った。この事業を後援頂いた藤沢市観光課、藤沢市観光協会、江ノ島電鉄㈱、江島神社を始めとした各位、並びに灯台の下で待機して頂いた藤沢市消防局の救急救命士3人の方々にこの場をお借りしてお礼申し上げたい。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの時には、1964年大会のヨット競技会場であった江の島にも世界各国の方に来て頂きたいと思っている。そのためにも何とかバリアフリー化出来ないものかとメンバーの間でも話が出ているところだ。

(会長／八城義友)

331-C地区

北海道・鵡川ライオンズクラブ

26年続く保育所児童対象の歯科検診及び口腔衛生指導

北海道むかわ町は人口1万人弱の町。町魚のシシャモが全国的に有名で、10月～11月には各地からの観光客でにぎわう。しかし、一次産業中心の町で主たる企業もないため、人口減少に悩んでもいる。この町で活動している鵡川ライオンズクラブ(吉田紀見会長／38人)は、4年後に認証50周年を迎える。

当クラブの主要事業は歯科検診アクティビティだ。鵡川町(現むかわ町)では歯科医師不在の時があり、児童を含め、口腔衛生状態は良くなかった。

そんな中、歯科医師のライオン田中友典が入会したことをきっかけに、1988年10月から毎年歯科無料検診を実施している。当初は農繁期の時期に開設される町立季節保育所5カ所の児童100人弱が対象だった。現在は児童の減少などにより保育所は2カ所に統合され、児童数も55人となっているが、歯科検診及び虫歯予防と口腔衛生指導、そして児童用歯ブラシのプレゼントを継続している。

食生活の変化により、健康な歯を維持することが難しい現代。歯科検診と適切な歯磨きの指導により、虫歯発症の減少に成果を上げている当事業は町や児童、父兄からも多くの感謝を頂いている。

その他の活動は会員の高齢化に伴って、限定された奉仕の継続となりつつあるが、各種イベント開催への協力、まちの森への植樹、献血の呼び掛けとお礼の粗品進呈などを実施している。今後も会員一同力を合わせ、地域発展のために諸行事の支援を継続して実施していく所存だ。

(幹事／両川武弘)

334-A地区

愛知県・名古屋城北ライオンズクラブ

東日本大震災支援事業 飯館村村民訪問コンサート

10月18日、名古屋城北ライオンズクラブ（林正之会長／57人）は福島県飯舘村・松川仮設団地訪問コンサートを開催した。

40周年を迎えた当クラブでは記念事業として東日本大震災被災地支援を計画。そこで、3年連続の陸前高田市小学生教育支援に加え、飯舘村原発事故被災者訪問コンサートの開催を決定した。ライオン誌の記事をきっかけに交流を続けてきた飯舘ライオンズクラブからの協力が得られることになり、口笛奏者世界チャンピオンの柴田晶子氏（郡山市）と仮設団地自治会の協力を得て実施する運びとなった。

当日は好天に恵まれ、第一仮設では広場を使い屋外で実施。第二仮設では屋内集会場を満員にして行った。柴田さんは3オクターブの音色を響かせ、タップダンスとのコラボレーションを披露。地元からスコップ三味線と民謡の飛び入りもあり、皆さんの笑顔と拍手の中、終演。避難生活を忘れて楽しんで頂くことが出来た。

打ち合わせで「避難生活はとかく引きこもりがち」だと聞いたため、この日は懐かしい駄菓子類とお茶も準備。お土産として各戸へ配布した愛知県産のお茶も好評だった。

翌19日には、5度目となる飯舘村内の視察を実施。全村避難で人が住めない村には、除染した土などが入った黒い袋ばかりが目立ち、荒廃が一層進んだように感じた。飯舘ライオンズクラブ菅野哲幹事がつぶやいた「復興については見切りも必要」という言葉はとても重く感じられた。

（認証40周年記念大会アクティビティ部会長／荒川安正）

335-C地区

奈良県・大和高田ライオンズクラブ

要約筆記者研修会 デフピープルの支援を受けて

大和高田ライオンズクラブ（49人）は今期で活動を終了するNPO法人デフピープルの聴覚障害者社会参加事業助成金を受け、要約筆記サークルOHPたかだへ、オーバーヘッドカメラ、プロジェクター、スクリーンなどを寄贈した。

更に全6回の要約筆記者スキルアップ研修会も開催させて頂くことになった。

10月5日、その講習会の第1回目が大和高田市総合福祉会館において開かれた。開会式の様子は新しい機器でOHPたかだの方に要約筆記をして伝えて頂いた。要約筆記とは、聴覚障害者、特に難聴者・中途失聴者に対し、その場の音声情報を日本語で書いて伝える筆記通訳だ。この日は3人のボランティアの方々が交代で私たちの話す言葉をひたすら書き続けていたのだが、過酷な労働であり、皆さんの手首もけんしょう炎で悲鳴を上げているという。こうして要約筆記の大変さを目の当たりにし、普段の活動に頭が下がる思いだった。

これからも可能な支援があれば行っていきたいという松田武久会長の思いも要約筆記の文字となり、参加者の皆さんの笑顔につながっていた。

参加者からは「要約筆記に必要な機材を寄贈して頂き、更にスキルアップ研修会も開催して頂くことになりました。今後は今まで以上に充実した内容で、難聴者・中途失聴者の社会参加の手助けが出来るようにがんばっていきたいと思っています。この度は本当にありがとうございました」との声が寄せられた。

（幹事／吉川修市）

334-E地区

長野県・松本中央ライオンズクラブ

目の前の命を助けるために AED救命講習会

人が集まる場所に自動体外式除細動装置（AED）が設置されるようになり、2004年から医療従事者以外にもその使用が認められ、応急処置の知識の必要性が高まっている。そこで松本中央ライオンズクラブ（下澤壽重会長／41人）では毎年1回、消防職員の指導の下で救命講習会を行っている。

8回目の今年は実践練習に加えて救命処置の流れを教わった。その流れとは、まず倒れている方へ大きな声で呼び掛け、反応がなければ協力者を募り、119番通報とAEDを持ってくるよう指示。喉の奥を広げて気道を確保し、呼吸していなければ人工呼吸を2回。その後、胸骨圧迫を30回、これらを繰り返す。AEDが届いたら音声メッセージに従って処置をする。音声が指示をしてくれるため、落ち着いて行動することが重要だ。

通報から救急車の到着までの時間は全国平均で8分前後だが、脳に酸素が行かなければわずか3分で脳細胞が死に始めてしまう。そうなると命が助かっても障害が残ったり植物状態となったりするなど社会復帰が難しくなるため、救命処置は非常に重要だ。参加者も積極的に質問して学ぼうとするなど、熱気ある会となった。

「もしも」の時、黙って見ているだけでは助かる命も助からない。目の前に倒れている人を助けられないほど残念なことはない。クラブでは今後も毎年講習会を行うことで会員の意識を高め、心肺蘇生法をより多くの人に知ってもらいたいと思っている。

（社会奉仕委員長／渡辺慶人）

337-A地区

福岡県・八女ライオンズクラブ

障害者支援 チャリティー音楽祭＆バザー

10月26日、八女ライオンズクラブ（大塚高典会長／67人）は障害者支援チャリティー音楽祭＆バザーを開催した。バザーは当クラブが障害者と共に汗して作り上げた10年来の一大事業である。毎年、バザーに合わせて講演会や音楽会を行っているが、今回は特に障害者福祉を目的とした音楽会を並行して主催した。

知的障害者楽団JOYクラブのバンド演奏、視覚障害と知的障害に加え、ホルモン分泌障害で成長が遅れながらも天才的な音感を持つ掛屋剛志さんのコンサート、市民団体のコーラス、市内3高校のバンド演奏が聴衆を魅了した。

掛屋さんは中学生だった7年前、当クラブの50周年記念式典に参加してくれた。その時、耳から入った曲を瞬時に演奏出来る彼の才能に観衆が驚嘆したのだ。その縁で今回、掛屋さんは佐世保市から駆け付けてくれた。

音楽祭を開いた市民ホールに隣接した公園広場には、前日から準備した仮設テントの下、身体障害者団体自由参加の手芸品コーナーと、食べ物コーナーを作った。どちらも大盛況で、最後を飾る大抽選会の当選発表では大勢の子どもたちを含めた参加者から歓声が上がっていた。

当クラブは1957年に誕生して以来、常に70人前後の会員数を維持し「地域に密着した奉仕」を目指してきた。人口減少が続く地域にあるため、常に新しい挑戦をしていかなければクラブが保てない。障害者と共生出来る、若者の住みやすい社会を作り、彼らに生きがいを与えることが今後の課題である。

（元地区ガバナー／林榮一）

336-A地区

徳島県・上板ライオンズクラブ

努力と熱意で続けた花いっぱい運動の21年

県道12号線と交わる町道357号線沿いの泉谷川河川敷に約1300平方㍍の県有地がある。上板ライオンズクラブ（37人）は10月18日、ここを整地し、畝立てした花壇に葉ボタンの苗1700本を丹精込めて移植した。

この事業が始まったのは徳島県が1993年に第48回全国身体障害者スポーツ大会の開催地となったことがきっかけだ。美しい町、花いっぱいの町として選手団を歓迎しようと、町が管理していた緑地を借り受けて春にはマリーゴールドを、秋には葉ボタンを植えている。会員の丹精込めた水やりや除草の結果、美しい花が咲き、道行く人の目を楽しませて21年になる。

また、花壇の反対側にあるイチョウ並木の間には当クラブがヒマラヤ桜の苗木を植樹しており、春には桜、夏はマリーゴールド、秋はイチョウ、冬は葉ボタンと、それぞれの季節に見所があるため、会員はこの町道357号線を「フラワーロード」と親しみを込めて呼んでいる。

こうして美しい花を楽しむことが出来るのも、長年にわたる会員の努力と熱意によるもの。例えば花壇の土は土木事業をしている会員が良質な土をダンプカーで搬入して重機を使い整地する奉仕をしている。また、移植前の施肥、薬剤の散布などは阿波藍を製造している藍師の指導を受けている。

猛暑でも、冬の寒い中でも会員が熱心に管理しているこの花いっぱい運動。会員の平均年齢も上がりつつあるが、熱心な若い会員に引き継いで、自慢のフラワーロードを守っていきたいと思う。（会長／加島武則）

331-C地区

北海道・登別中央ライオンズクラブ

ふれあいフェスタで焼き鳥2千本を販売

8月31日、登別中央ライオンズクラブ（半澤導幸会長／30人）は登別市社会福祉協議会が主催する「ふれあいフェスティバル2014のぼりべつ」に焼き鳥コーナーを設け、肉の調理と販売を実施、地域に密着した奉仕活動に汗を流した。

同フェスティバルは「障害のある人も、ない人も共に楽しみ、笑い、語り合い、絆の輪を広げる」ことを目的に毎年開催されている。屋内のメーンステージでは、地域活動センターによるカラオケ大会や手話歌、抽選会が実施され、体験広場では、点字点訳を始め車椅子の試乗会、障害のある人たちによる手作りパンの販売などが行われる社会福祉協議会の一大イベントだ。

当日はクラブ名の記載されたそろいのTシャツを着た会員が8時に会場へ集合。作業分担を確認しながら開店に備えた。当地の「焼き鳥」は、串に豚肉とタマネギを刺しているため、鶏と違いきちんと火を通さないと食中毒の原因になりかねない。会員は一本一本慎重に確認しながら焼いていた。

開店時には長蛇の列が出来た。お客さんの要望に応えて塩、たれに分けて焼いていくメンバーたち。初秋とはいえまだまだ日差しも強く、炭の熱と煙が焼き手を襲うため、大変だ。焼き手は20～30分で交代し、水分補給しながら社会奉仕に専心した。

結果、フェス終了1時間前の午後2時には完売したが、焼き鳥を求めて来る人が相次いだ。会員らは丁重にお断りしつつも話し掛けるなどして、来場者と交流を深めていた。（PR・会報・情報委員長／後藤満）

333-B地区

栃木県・石橋ライオンズクラブ

家族と共に奉仕に取り組む 平均年齢40代の若きライオンズ

11月9日、下野市石橋町の大松山運動公園陸上競技場で、下野市産業祭が開催され、石橋ライオンズクラブ（前原正義会長／46人）は「とりそば」と「とりうどん」の店を出し事業資金獲得を図った。このイベントは、2006年に石橋、国分寺、南河内の3町が新設合併し、下野市となる以前から「ふれあいプラザ」として実施されていたもの。石橋ライオンズクラブではその頃からそば屋を出店、30年以上の継続事業となっている。

昨年まではテント内で会員たちがそば打ちを実演、そのパフォーマンスもあって人気ブースとなっていた。が、今年は保健所からの指導で現地でのそば打ちが出来なくなり、楽しみにしていた常連の市民たちはがっかりの様子。それでも、鶏肉やきのこ、野菜をふんだんに入れただしはとてもおいしく、小雨降る中、温かいものを求めて多くの市民がライオンズのテントを訪れていた。

ブース内では流れ作業でそばやうどんを作り、それを女性陣が客の元へ運ぶ。このイベントには以前から夫人たちも全面協力、特に14年2月に家族会員となってからはより一層、奉仕に力が入っているようだ。

また、この日は初の試みとして、石橋商工会青年部と合同で献血と献眼登録の受け付けを実施した。商工会青年部とは日頃から多くの場で連携、そのおかげでライオンズへの入会率も高く、同クラブでは30代、40代の会員が半数近くを占めている。

地域に密着した事業に若手と家族で取り組むその姿は、新しいライオンズ活動の在り方を先取りしたロールモデルと言えそうだ。　（取材／鈴木秀晃）

3分間
ライオンズ
アクティビティ編

視力保護・盲人福祉
盲導犬①

古代から人の傍らに在った盲導犬

ライオンズクラブの視覚障害者奉仕の一つに、盲導犬育成があります。この事業について2回にわたり紹介します。その1回目の今回は、盲導犬の来歴を見ていきましょう。

目の不自由な人を犬が先導して補助をするというのは、かなり古くから行われていたようです。イタリアにある約2千年前のポンペイ遺跡の壁画には、目の不自由な男性が犬に導かれて市場を歩く姿が描かれています。でも明確な資料として残っているのはずっと時代を下った1891年、ウィーンの神父が犬の首輪に細長い棒を付けて盲導犬として訓練したのが最初でした。現在のように専門の施設で組織的な取り組みを始めたのは、第1次世界大戦後のドイツです。戦争で失明した多くの軍人の社会復帰を促すために、何千頭もの犬が訓練されました。

日本では1939年、戦争の激化により失明する兵士が増え、初めてドイツから盲導犬であるシェパード4頭が導入されました。しかし戦時中に盲導犬育成事業は消滅。戦後になって社会が復興していく中で再開されることになります。

東京霞ケ関ライオンズクラブらの努力で誕生した日本盲導犬協会付属盲導犬学校での訓練風景

日本のライオンズクラブが盲導犬に関する事業に取り組み始めたのは、東京オリンピックが開催された64年頃のこと。この年、社団法人日本動物福祉協会の幹部だった東京霞ケ関ライオンズクラブのライオン久米権九郎、ライオン小松貞尚が、盲導犬学校委員会を発足させました。これを受けて東京霞ケ関ライオンズクラブは同学校への支援を決め、これを継続事業としました。

しかし、一部のメンバーは熱心に盲導犬育成を進めたものの、全体としては理解度が低く、なかなか浸透しませんでした。65年、活動の中心となっていたライオン久米は病床にある中で、盲導犬事業は時期尚早としてキャビネット会議で取りやめが決まったことを聞き、「時期尚早はおろか1日も早く始めなければならない。20万人の盲人のために援助の手を差し伸べて頂きたい」と、熱く語っています。

事態が動き出したのは66年。日本盲導犬協会が設立され、その初代理事長として元302E1地区ガバナーで後に国際理事となる参議院議員のライオン迫水久常（東京ライオンズクラブ）が就任。他にも多数のライオンが理事として名を連ねました。これを機に、67年になると全国のライオンズを始め、善意の人々からも募金が相次ぎます。そして68年、ついに8頭の盲導犬が訓練を終えて日本盲導犬学校を卒業。待ち焦がれる主人に引き取られていったのでした。

その後、盲導犬事業は海を越えます。89年、栃木県・黒磯ライオンズクラブが、姉妹提携をしていた韓国・大邱達西ライオンズクラブの協力を得て、当時盲導犬がほとんど普及していなかった韓国に盲導犬を贈りました。これが大きな反響を呼び、大邱市は盲導犬が公共の乗り物に乗れるように法令を改正。更に韓国人の盲導犬訓練士が栃木盲導犬センターでトレーニングを受けることになり、ライオンズはこれを支援しました。

そして現在、日本各地のクラブが盲導犬育成のための募金やPR、盲導犬となる子犬の飼育奉仕（パピーウォーカー）などに取り組んでいます。

第53回東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラム

11月13日から16日、韓国・仁川（インチョン）で第53回東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラムが開催された。2001年に開港した仁川国際空港付近を会場にしたフォーラムの登録者数は過去最多の24,480人に上り、日本からは1,741人が登録した。

２００１年に仁川国際空港が開港し、14年のアジア大会の会場となった韓国北西部の仁川広域市が今回の東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラムの会場だ。本部ホテルは空港近くのグランドハイアット仁川。開会式などが行われたのはそこからバスで30分ほどの所にある松島（ソンド）コンベンシア。空港のある永宗島（ヨンジョンド）から総延長21キロの仁川大橋で結ばれた松島は、経済自由地域に指定された新都市だ。松島コンベンシアの隣にはフード・コートが設置され、多くの参加者が韓国料理に舌鼓を打っていた。

53回目を迎えたフォーラムのテーマは「寛容（Tolerance）」。約1万人が参加した開会式でのテーマ・スピーチでは、かつて貧しく、世界から手を差し伸べられる国だった韓国がわずかな年月で手を差し伸べる立

14日の開会式では、視覚障害者の吹奏楽団や韓国伝統音楽の演奏が披露された。プレストン国際会長は「We can（我々は出来る）」の力強いメッセージを発し、韓国のライオンによるテーマ・スピーチでは北朝鮮との間で勃発した延坪島砲撃事件などを取り上げつつ、フォーラム・テーマでもある「寛容（Tolerance）」の重要性を訴えた。フォーラムの登録者数は韓国20,013人、次いで日本1,741人、台湾1,114人で計20カ国24,480人と過去最多。開会式では会場後方まで人が入り、入場行進に大きな歓声が上がった

場へと変わったこと、世界平和の実現には寛容が大切であることが語られた。

山田實紘国際第1副会長はOSEAL地域から選出されている唯一の執行役員として随所にリーダーシップを発揮。議長と地区ガバナーの会議ではOSEALスタンディング（常任）委員会の設置を提唱し、承認された。この委員会は山田第1副会長が委員長を務め、フォーラム組織委員会に助言や提言を行う。

また、山田第1副会長は第1副地区ガバナーとの会議で、ガバナー就任までの準備や心構えに関して「地区ガバナーは名誉のために引き受けるものではない。1年間の活動の結果に対して名誉が与えられる」など自らの考えを述べた。また、来年度の国際会長としての方針に触れ「国際会長テーマはまだ発表出来ないが、人の生命の尊厳を守る奉仕や、将来を担う子どもたちへの奉仕に力を入れたい」と語った。また、OSEAL地域が古いしきたりや伝統に縛られる傾向にあることを指摘し、古いしがらみにとらわれない、本当の奉仕の実現が大切だと訴えた。

国際会長と地区ガバナーの会議

国際第1副会長と第1副地区ガバナーの会議

❶ジャパン･レセプションではホノルル国際大会での当選を目指す安井克之国際理事候補者（331複合地区／右）と佐藤宜之国際理事候補者（337複合地区／左）を山田實紘国際第1副会長を始めとした面々が激励❷国際会長セミナーではクラブ運営の在り方についてグループワークが行われ、日本人参加者も意見交換をしていた❸日本語セミナーでは高田順一元国際理事が100周年記念奉仕チャレンジの概要を説明（写真）、山浦晟暉元国際理事がGMTについて語った

第1回ガバナー協議会議長と地区ガバナーの会議

ジョー・プレストン国際会長が担当した国際会長セミナーでは、クラブ例会についてグループ・ディスカッションが実施された。若者が入会したくなるような、魅力的な例会を実施するにはどうすればいいのか。受け継ぐべき伝統と、そうではないものとがあるのではないか。こうした例会の在り方についてそれぞれのメンバーが意見や疑問を出し合う時間となった。言語ごとに分かれてのディスカッションだったこともあり、日本のメンバーも積極的に意見交換をしていた。

最終日の閉会式では安井克之元地区ガバナー（331複合地区）、佐藤宜之元地区ガバナー（337複合地区）、ウーソク・チョン元地区ガバナー（韓国／354複合地区）を2015〜17年国際理事候補者として、ナレシュ・アガワル元国際理事（インド）を15〜16年国際第2副会長候補者としてそれぞれ推薦することなど27項目の決議事項が発表された（29ページに関連記事）。

今回のフォーラムでは地元韓国から全体の8割を占める2万人の登録があり、登録者数は2万4480人と過去最高を記録した。だが実際に会場で受ける印象は、前回のシンガポール・フォーラム（登録者数66

7

❹OSEAL地域からの推薦が承認された安井国際理事候補者❺佐藤国際理事候補者❻ウーソク・チョン国際理事候補者（韓国・354複合地区）❼随所でリーダーシップを発揮した山田国際第1副会長❽閉会式ではテヨン・キム組織委員長（右）から次回タイ・バンコクで開催される第54回OSEALフォーラム組織委員長のポンサック・ケドサワデポン元国際理事へOSEALフォーラム旗が手渡された

4

5

6

8

38人）と大差がなく、セミナーでは空席が目立つ会場も多く見受けられた。これは本部ホテルと松島コンベンシアの二つの会場の移動に時間が掛かったことも一因だと考えられる。一方、シンガポール・フォーラムで問題になった同時通訳の不備は解消されており、ほぼ全てのセミナー、会議で同時通訳が入るようになっていた。そのため、前回と比べると議事進行が随分スムーズになったと言える。

次回のフォーラムは15年12月3日〜5日にかけてタイ・バンコクで開催される。閉会式では組織委員長を務めるポンサック・ケドサワデポン元国際理事を始めとしたタイのメンバーがそろいの緑のジャケットで会場を盛り上げた。タイの登録者数は事前の予想を上回る635人。彼らは次回のホスト国としてフォーラムの各場面に積極的に参加していた。

世界に七つある会則地域の中で、OSEAL地域は会員増強においても、LCIFへの貢献においても、最も成功を収めているエリアだ。いよいよ山田国際会長が誕生する来年度、OSEALが結束してリーダーシップを発揮していくことが期待される。

（取材／河村智子・井原一樹）

ジョー・プレストン国際会長公式訪問

信念を持って誇りを高めよう

11月7日に334、335、336、337複合地区（西日本／大阪・日航ホテル大阪）、9日に330、331、332、333複合地区（東日本／東京・ホテルニューオータニ）への公式訪問を行ったジョー・プレストン国際会長は、誇りを高めるためにどう行動すべきか、日本のライオンズに向けて力強いメッセージを送った。そのスピーチと、西日本公式訪問の前に開かれた国際会長セミナー、東日本公式訪問の前に開かれた女性会員との懇談会で交わされた国際会長との質疑応答の一部を収録する。

国際会長スピーチ

誇りを高めるため奉仕に注力

日本の皆さんとお会い出来て大変光栄です。皆さんのもてなしと温かい友情に感謝申し上げます。

私はアメリカ・アリゾナ州の出身です。アリゾナはライオンズクラブ国際協会の創設者メルビン・ジョーンズの生誕地でもあります。我らが創設者はこんな言葉を残しています。

「ライオンズクラブ国際協会には、絶えず彼岸の世界がある。それは近づけば近づくほど大きくなり、すぐにも手が届きそうで届かない。より速く走れ、より懸命に働け、より深く考え、より多くを与えよ、と我々に挑んでやまない」

メルビン・ジョーンズには夢がありました。私にも夢があります。ライオンズという家族をより強くしたいという夢です。そこで私の国際会長テーマを「誇りを高める」としました。これはおごり高ぶるという意味ではありません。これまで成し遂げてきたことに対する誇りであり、伝統に対する誇り、そして私たちが行うすばらしい奉仕活動に対する誇りです。

自然界ではライオンの群れは「プライド」と呼ばれます。厳しい自然の中で生き残るために、群れのライオンはそれぞれ役割を持っています。私たちライオンズも、成功と繁栄のために共に努力していかなくてはなりません。国際会長として、私は協会をより強化するためにあらゆる努力をする覚悟です。とはいえ一人では何も出来ません。皆さんと力を合わせれば必ずや出来るはずです。

「誇りを高める」ための一番の方法は、奉仕に注力することです。私たちライオンズにとって、奉仕とはただ頭に思い描く夢ではなく、アイデンティティーそのものです。ライオンズだけが100周年記念奉仕チャレンジのような大きな事業を成し遂げることが出来ます。青少年、視力、飢餓（食料支援）、環境の四つの分野でそれぞれ2500万人、合わせて1億人に対する奉仕を、100周年を迎える2017年までに達成しようというチャレンジです。ライオンズは人道奉仕における世界のリーダーであり、私たちにはより良い地域を作り、助けを必要とする人々に手を差し伸べるためになすべき事業がたくさんあります。

3年前にウィンクン・タム国際会長は100万本の木を植えようという夢を抱き、最終的には1400万本が植樹されました。その翌年には

ウェイン・マデン国際会長が識字率の向上を目指し、1年間に4万件の識字関連事業が実施されました。昨年のバリー・パーマー国際会長の夢は会員の増加と女性会員の増加で、その両方を実現しました。私たちライオンズが力を合わせて真剣に取り組めば、何事も成し遂げることが出来るのです。一つの親切な行いが一つの奉仕活動となって、私たちは夢を実現していくのです。

今回日本を訪れて、335-B地区のレオの発表を聞く機会がありました。彼らは海岸の清掃活動、東日本大震災の被災者への支援、献血活動などたくさんの奉仕を行い、地域に大きな変化をもたらしています。だからこそ、私たちはもっとレオクラブを増やしていく必要があるのです。

こうした私たちの奉仕を拡大するための最も簡単な方法が、会員増強です。会員が増えれば、より多くの奉仕を提供することが出来ます。新年度が始まってこれまでのところ、各地区は新クラブの結成に、各クラブは新会員の招請に取り組んで成果を上げており、「アスク・ワン（一人誘おう）」プログラムが成功を収めています。中でも日本は女性の会員数の増加が最も急速に進んでいる国で、この動きを更に加速して頂きたいと思います。

信念を持って吼える

「誇りを高める」ためのもう一つの方法に指導力があります。私たちは常に会員に目配りをして、指導力を高めるよう奨励しなければなりません。訓練を行い、育成し、メンタリングを行うのです。もちろん新会員獲得や新クラブ結成は非常に重要なことではありますが、同様にあるいはより重要なことは、既存の会員を大切にして維持に努めることです。私はこれを「キープ・ワン（一人維持しよう）」と名付けました。多くの会員にとって、新クラブの結成や新会員の獲得に貢献することは容易

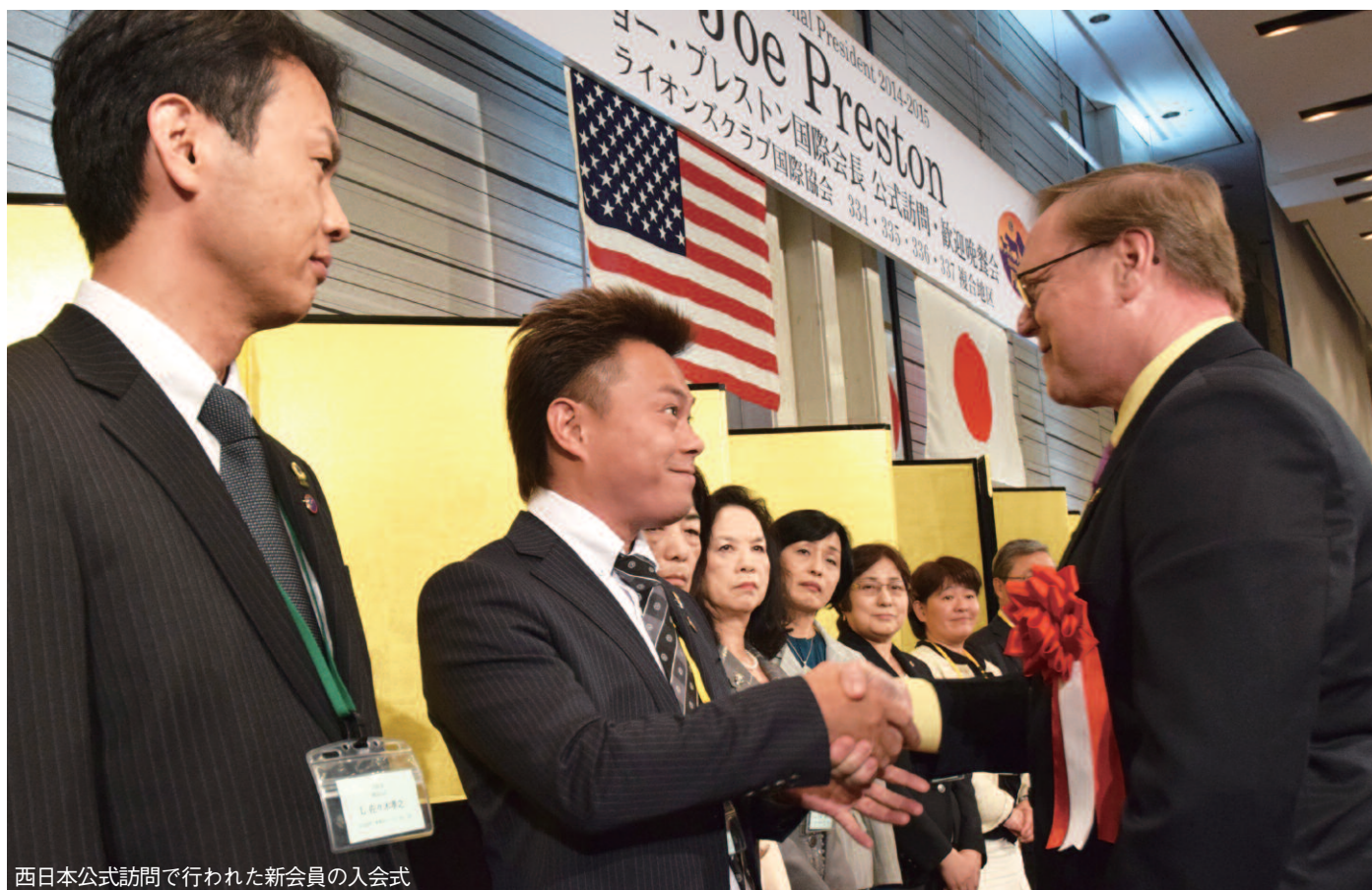
ではないでしょう。しかし会員の維持においては、誰もが重要な役割を担うことが出来ます。クラブ例会では新会員の隣に座って彼らが居心地良く感じるような雰囲気を作るとか、一緒に奉仕事業に参加するよう声を掛けるとか、さまざまな方法があると思います。ぜひクラブの会員を維持する活動に時間と労力を注いでください。私たちの地区やクラブを強化していくには、チームが結束して取り組まなければなりません。それが出来て初めて夢が実現するのです。大切なのは何をするにもまず楽しい雰囲気を作ることで、全ての会員の顔に微笑みが浮かぶようにしていかなければなりません。

「信念なき咆哮は、ただの騒音でしかない」と言われます。昨年12月、私と妻のジョニはケニアを訪問しました。私たちはサファリに出掛けて多くの動物を見ましたが、ライオンははるか彼方にしか見えませんでした。ところがキャンプへ帰ろうとした時、ジョニが近くに2頭のライオンがいるのを見付けました。1頭の雄ライオンが一生懸命に求愛をしていたのです。雄ライオンは何度も繰り返し吼えていましたが、ただの雑音にしか聞こえず、雌ライオンの関心を引くことが出来ずにいました。そのうち、近くで見物している私たちが邪魔だったのでしょう、雄ライオンはこちらを真っすぐに見つめて8回ほど大きく吼えました。まさに信念と熱意のこもった咆哮でした。まさにこれこそが私たちがしなければいけないこと、熱意と信念を持って吼えるということです。私が作ったテーマ曲にこんな一節があります。

「ライオンのように吼えよう。私たちは決して挑戦することを止めないと世界中に知らしめよう」

私たちは世界に向かって、我々が何者で何をしているか、なぜ我々に賛同し仲間に加わるべきなのかを伝えていかなければなりません。そして常に挑戦を続けなければなりません。私たちには奉仕という重要な使命があり、諦めるわけにはいかないのです。日本の皆さん、力を合わせれば、会員を増強し、指導者を見いだし育てることが出来ます。そしてクラブの効力を高め、より多くの奉仕を提供することも出来ます。共に誇りを高めていきましょう。

国際会長との質疑応答

Q クラブ例会に参加するよりもアクティビティに参加する方が大事だとお考えですか。

西日本公式訪問で行われた新会員の入会式

東日本公式訪問の中で行われた330-A地区の三つの新クラブへの認証状伝達式

A 例会出席は大切なことです。しかし地域に出てアクティビティをすることは、より重要だと私は考えています。例会をどの程度重視するかはクラブが決めることですが、インターネットで例会を行っていたり、例会の頻度が少ないクラブでも、すばらしいアクティビティを行っている例があります。これまでの方法を変えたくないというクラブもあるかもしれませんが、特に若い会員をクラブに引き付けるには、柔軟な運営をしていく必要があります。

Q 新会員を誘う際、数ある奉仕団体の中でライオンズクラブを選ぶ理由をどう説明すればよいでしょう。

A 一つには、ライオンズでは運営は会費で賄い、公共から集めた資金は全て奉仕事業に充てるという点があります。LCIFでも同様で、献金は全て交付金として支援を必要とする人々のために使われ、運営費は投資で賄っています。このように明言出来る団体は実は少ないものなのです。もう一つ特別なことは、世界中に奉仕の精神を持つ会員がいること、つまりニーズがある所にライオンがいるということです。

Q これまでに出会った女性会員で、特に印象に残っているのはどんな女性ですか。

A 妻のジョニです。彼女は非常に精力的で、アクティビティに熱心に取り組み、リーダーシップを発揮しています。皆さんも同じように積極的に活動されているものと思います。日本は世界の中で女性会員、家族会員が最も急速に増加している国で、誇りを高めるための皆さんのご尽力に感謝申し上げます。しかし他の国に比べると、日本の女性会員の割合はまだ低いのです。裏を返せば、更に女性を増やしていく余地があるということです。

Q 日本には男性優位のしきたりがあり、地方へ行くほどその傾向が強く、女性会員や家族会員の増強を進めていく上で難しさがあります。

A 風習やしきたりは即座に変えられるものではありません。しかし段階を経て変えていかなければなりません。一つの段階は、男性の会員に女性の能力を教えていくことだと思います。女性会員を増やすための戦略は必要ですが、重要なのは数字や割合だけではありません。地区ガバナーといった指導的役職を務めた女性は、男性と同じように仕事が出来ることを証明するロールモデルとなっています。より多くの女性にリーダーとして活躍してもらうことが重要です。

執行役員だより

真に価値あるOSEALになろう

■国際第1副会長
山田實紘
（岐阜県・美濃加茂）

11月13～16日、韓国・仁川で東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラムが開催されました。世界では毎年六つのエリア・フォーラムが行われ、国際第1副会長はその全てに招請されるので、私にとっては今年度四つ目のフォーラムということになります。OSEALでは私は故郷に帰ってきたという気持ちが強く致します。各国の友人たちとの再会も大きな楽しみの一つです。しかしまたこの地域出身の執行役員として、OSEALで私が果たすべき責任と役割はより重要であると認識しています。そんな中、今回私はOSEALスタンディング（常任）委員会の設置を提案しました。

仁川フォーラムは日本からの多くの参加者も含め、2万人を超える登録者数となりました。規模と参加者数においては世界最大で、開会式等の華やかさにおいても群を抜いています。しかし、メンバー同士の情報交換、学習と啓発の機会提供といった点ではどうでしょうか？ 今回参加された皆さんは、幾つのセミナーに出席されましたか？ 全部に出席したとしても、片手で足りる数であったと思います。

国際会長セミナーはインドやオーストラリアの元国際理事がファシリテーターを務めてワークショップ形式で行われたが、会場には空席が目立った

アメリカ・カナダ・フォーラムでは、大小合わせて120を超えるセミナーやワークショップが行われます。参加者は関心のあるトピックを探してスケジュールを組み、多くのセッションに参加します。それだけ数があるので若手にもスピーカーの機会が与えられ、そこから「あいつはなかなかいい話をする」という評価を得て、将来のリーダーへ推挙されていくこともあるようです。ヨーロッパ・フォーラムでは、各国共通の課題に関する会議や新たな奉仕プロジェクトを検討するセミナーなどが開かれ、参加者は終日まさに「缶詰」状態で研修・討議します。

楽しむことはもちろん大切ですが、今のOSEALフォーラムは物足りないと感じている会員もいるはずです。運営面でも、役員入場などで2時間待たされた後に30分で終わってしまう開会式や、適切な通訳が無く何が起こっているのか分からないセミナー、自己紹介だけで実質討議の無い会議など、過去には多くの問題が指摘されてきました。他のエリアでは、セミナー企画、スピーカーの選任、テーマや財政面の検討などを行う企画委員会を設置している事例もあります。今回OSEALに設置したスタンディング委員会は、私と3人の元国際会長、そして現職の国際理事をメンバーとしています。フォーラム組織委員会に対して必要に応じて助言や提言を行い、我々のフォーラムが常に一定の基準を満たし、円滑に国際協会との連携を取り、参加する会員にとってより有意義なイベントとなるための支援を行い、長期的視点で提案をしていきます。

OSEAL地域は会員増強でも、LCIFへの貢献においても、協会随一の存在です。これからは、それに見合う発信力を強めていきたい。OSEALフォーラムの充実はその第一歩です。ぜひ皆さんと一緒に、より良いOSEALに変えていきましょう。

ライオンズ・ニュース・カセット

LIONS NEWS CASSETTE

第53回東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラムの主な決議事項

11月13～16日の4日間にわたって開かれた仁川フォーラムは登録者数2万4480人（うち日本は1741人）に上り、26項目の決議事項を採択して幕を閉じた。主な決議事項は以下の通り。

・OSEAL地域にスタンディング（常任）委員会を設置することを採択

・2015～17年国際理事候補として331複合地区（日本）の安井克之元地区ガバナーを推薦

・2015～17年国際理事候補として337複合地区（日本）の佐藤宜之元地区ガバナーを推薦

・2015～17年国際理事候補として354複合地区（韓国）のウーソク・チョン元地区ガバナーを推薦

・2015・16年度国際第2副会長候補としてナレシュ・アガワル元国際理事（インド）を推薦

・第54回OSEALフォーラムはタイ・バンコクで2015年12月3～6日に開催

・第55回OSEALフォーラムは香港で2016年に開催（日程は未定）

今フォーラムで国際理事候補者として推薦を受けた安井克之元地区ガバナー（北海道・旭川東ライオンズクラブ）は63年入会、90年度クラブ会長、93年度地区会計、97年度リジョン・チェアパーソンを経て、11年度地区ガバナーに就任。佐藤宜之元地区ガバナー（大分ライオンズクラブ）は91年入会、03年度地区会計、06年度クラブ会長を務め、09年度地区ガバナーに就任した。国際理事及び国際第2副会長の選挙は2015年6月にアメリカ・ハワイ州ホノルルで開かれる第98回国際大会で行われる。

ジャパン・ナイトで山田国際第1副会長の激励を受ける安井、佐藤両国際理事候補者

地区ガバナー就任に向けた第1副地区ガバナー複合地区研修会

地区ガバナー就任を目前にした第1副地区ガバナーは、オンライン事前課題学習と複合地区研修会、グローバル指導力育成チーム（GLT）エリア研修会を経て、来年6月のホノルル国際大会直前に行われる地区ガバナー・エレクト・セミナーを受講し、地区運営の責任者としての準備を整える。日本での複合地区研修会は東西4複合地区ずつが合同で実施している。今年度は東日本（330、331、332、333）の複合地区研修が11月29日に東京都千代田区の全国市町村会館で、西日本（334、335、336、337）は11月27日に兵庫県神戸市の神戸ポートピアホテルで開催され、GLTチームの後藤隆一会則地域副リーダー、大野元裕（東日本担当）、団英男（西日本担当）両エリア・リーダーが講師を務めた。

研修は国際本部が用意したカリキュラムに沿って行われる。「地区ガバナーになるための準備」の単元では、ガバナー就任を前に抱えている地区の課題についてディスカッションを行った他、地区運営に必要不可欠な情報技術の活用

について も学習した。課題として挙げられたのは家族会員の増強や弱体クラブの支援、地区内編成、事務局固定化などで、各地区の状況や事例を紹介しながら対応を話し合った。他にも国際本部からの情報入手や申請を適確に行うためのノウハウを確認するなど、実務的な研修が行われた。こうした研修は地区を超えた情報交換や交流の場でもあり、次年度に向かう意欲を一層高める機会となっている。

スコッツデール国際理事会で承認されたLCIF交付金

10月のスコッツデール国際理事会で、総額440万4033ドルのLCIF交付金が承認された。内訳は56件274万7733ドルの一般援助交付金、国際援助交付金、四大交付金と、ライオンズ・スペシャルオリンピックス・ミッション・インクルージョン・プログラム向け障害者援助四大交付金の156万3300ドル。

このうち日本に交付された一般援助交付金及び国際援助交付金（＝IAG）は8件、14万2千ドルだった。申請地区と事業内容は左記の通り。

▼331-A地区＝発達障害の児童を支援するセンターの設備1万500ドル▼334-A地区＝マレーシアのダウン症児のため輸送車両を購入1万6千ドル▼334-A地区＝障害者の福祉施設通所用に輸送車両を購入2万ドル▼334-B地区＝眼科検査機器の購入と検査プログラム構築に1万5千ドル▼334-E地区＝第40回フィリピン医療奉仕（IAG）3万ドル▼334-E地区＝フィリピンでの歯科医療奉仕（IAG）3万ドル▼336-C地区＝障害者の輸送車両購入1万5500ドル▼337-D地区＝障害児施設の設備1万ドル

全交付金の交付先と申請事業のリストはLCIF公式ウェブサイト（www.lcif.org）に掲載されている。

会議録

■第1回LCIF複合地区コーディネーター会議（10月30日）①報告事項：2014年8月のLCIFステアリング委員会について②エリア別討議③各複合地区の実績報告及び今後の見通しとその対策について④その他

■第4回ライオン誌日本語版委員会（11月5日）①ライオン誌日本語版事務所の運営②2014年11月号（10月20日見本／9万7700部発行）出来③12月号記事内容の確認④2015年1月号以降台割（案）と主要記事予定⑤その他

■第5回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（11月25日）①国際役員来日日程関連②ライオン誌日本語版委員会との懇談③ライオン誌日本語版取材の件④各種報告及び確認事項⑤GMT報告⑥各種委員会・連絡会議及び要望⑦日本ライオンズ連絡事務所運営関係⑧その他

新結成クラブ

■新結成クラブ

北海道・岩見沢はまなす（松浦淳一会長／26人）▼11月17日認証▼スポンサー／札幌中島

鳥取県・湯梨浜みらい（伊東元孝会長／20人）▼11月26日認証▼スポンサー／境港美保

訃報

■元国際役員

中村昌道（福島県・会津若松鶴城）
11月5日死去。88歳。93年度332-D地区ガバナー。

溝口茸雄（佐賀中央）
11月8日死去。88歳。93年度337複合地区ガバナー協議会議長、337-C地区ガバナー。

■献眼者

10月＝齊藤文次郎（茨城境）

◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

国際理事会決議事項要約
アメリカ・アリゾナ州スコッツデール
2014年10月5日～8日

監査委員会
1. ライオンズクラブ国際協会及びライオンズクラブ国際財団の監査済み2014年6月30日時点の財務諸表の内容を確認の上、承認。監査済み財務諸表は理事会会議後入手可能となる。

会則及び付則委員会
1. 301-A1地区諮問委員会のメンバーを任命。
2. 副会長候補見込者の検討に当たる諮問委員会の目的及び目標を定めると共に委員会名を変更し、これに応じて理事会方針書第2章を改定。
3. 2015年国際大会に提出する、第3副会長職を復帰させる国際会則及び付則改正案を採択。
4. 2015年国際大会に提出する、理事会構成の再配分に関わる国際会則改正案を採択。
5. 2015年国際大会に提出する、「リーダシップ」委員会の名称を「リーダーシップ開発」委員会と変更する国際付則改正案を採択。

大会委員会
1. 大会公式行事予定表の開始時間を改訂。
2. ホノルル国際大会に出席する、任命され他の経費支払いを受けない資格証明委員会メンバー、地区ガバナー・エレクト、地区ガバナー・エレクト講師、及び本部職員の日割許容額を制定。
3. 資格証明及び選挙の手順について、理事会方針書第8章E項に記載されている手続き、任命、手順を更新することにより方針を改訂。

地区及びクラブ･サービス委員会
1. 電子手段による報告及びコミュニケーションを促すものとなるようクラブ優秀賞及び地区ガバナー・チーム優秀賞を改定。
2. サントメ・プリンシペ共和国を含めるため、403-B1地区を拡張。
3. 1-E地区と1-L地区（アメリカ・イリノイ州）、14-A地区と14-R地区（アメリカ・ペンシルベニア州）、29複合地区（アメリカ・ウェストバージニア州）、37複合地区（カナダ及びアメリカ・モンタナ州）、104複合地区（ノルウェー）の各地区再編成案を承認。再編成が発効するのは、2015年国際大会閉会時。106-A地区と106-B地区（デンマーク）からの地区再編成案及び13複合地区（アメリカ・オハイオ州）からの地区再編成案を承認。再編成が発効するのは、2016年国際大会閉会時。
4. 地区ガバナーの空席を補充するべくライオンを任命。
5. 郵便ラベルを電子データ形式に切り替えることにより連絡先情報提供の手順を最新化するため、理事会方針を改定。
6. ライオンズクラブ国際協会の公認プロトコールに記載される新規肩書、及び国際会長または事務総長が決定する新規肩書用に名札を作れるようにするため、理事会方針書を改正。

財務及び本部運営委員会
1. 一般資金及び緊急積立金の投資方針声明文に対して推奨された変更を承認。変更事項には以下が含まれる。
   - ●期待されるリターンがカラン5カ年資本市場予測と承認された戦略的な資産配分に基づいて毎年調整される。期待リターンは毎年委員会と共に確認され、四半期ごとの検討事項となる。
   - ●その他の変更事項：ポートフォリオのベンチマーク変更、現存の資産配分の変動幅に関する記述修正、より関連性のある同等グループや指数等の使用。
   - ●些細な誤字の訂正。
2. ライオンズクラブ国際協会の購買方針への瑣末な改定を承認。
3. 赤字となる2014-2015年度第1四半期収支予想を承認。
4. 2014-2015年度用に、一般資金投資から400万ドルを年間支出額の増額分に充てることを承認。
5. 理事会方針書第22章E項dの「1マイルにつき0.41ドル、もしくは1キロにつき0.25ドル」とある箇所を、「1マイルにつき0.50ドル、もしくは1キロにつき0.31ドル」と改定。これは2015年7月1日に発効となる。
6. 理事会方針書第9章C項4.c.(2)を全文削除し、以下と差し替えることを承認。

   民間航空機を利用して旅行することが不可能であり、かつ大幅な費用節約が実現出来る場合に、チャーター機による旅行が財務及び本部運営委員会により事前に許可される場合がある。

（33ページに続く）

理事会リーダーシップ委員会の名称を「リーダーシップ開発委員会」と変更するためのもの。

長期計画委員会

1. 理事会議席の再配分を会則改正案として2015年大会で代議員に提出して承認を求めることを決定。この再配分が承認されれば、会則地域1から選出される国際理事の数が減り、会則地域5及び6から選出される国際理事の数が増えることになる。
2. 第3副会長職を復活させるための会則及び付則改正案を2015年国際大会で代議員に提出して承認を求めることを決定。
3. 100周年記念計画委員会の名称を「100周年記念実行委員会」と改名。

会員増強委員会

1. アメリカ、カナダ、イギリス諸島、アイルランド、スウェーデン、オーストラリアにおいて、地域を拠点とする既存の非営利団体でライオンズクラブを結成またはクラブ支部を編成するための「Join Together」新クラブ・パイロット・プログラムを2年間試験的に行うことを承認。
2. 2015年4月1日より実施される、100周年会員増強プログラムを承認。
3. 出席が承認されたフォーラム経費が払い戻しの対象となるよう、国際家族及び女性コーディネーター職に関する記述内容を改定。
4. 会則地域5及び6において、GMT・GLTの構造を反映する家族及び女性会員増強組織を設けるパイロット・プログラムを承認。
5. サントメ・プリンシペ民主共和国を210番目のライオンズ国／領域とすることを承認。
6. キャンパス・ライオンズクラブに認められる会費請求額に対する修正期間延長について、理事会方針書を改定。2015年7月1日に発効するこの改定により、キャンパスクラブがクラブ名簿を修正出来る期間は、1月の会費請求分については3月31日まで、また7月の会費請求分については9月30日までとなる。
7. 「エクステンション及び会員部」を「会員開発部」と改名することを承認。

PR委員会

1. 100周年記念補助金プログラムを変更し、複合地区については1地区当たり1,500ドル（ただし合計15,000ドルを超えないこと）を交付上限、単一地区については2,500ドルを交付上限とすることを承認。
2. 2018年1月1日までに全てのライオン誌公式版を印刷物からデジタル形式に切り替えることを承認。
3. 100周年に関わる記事を全てのライオン誌公式版への必須掲載記事とするため、理事会方針書第17章を改訂。
4. 「役職の順位」において、ライオンズクラブ国際財団事務総長を協会会計の直下に挿入。
5. 2014-2015年度に授与出来るリーダーシップ・アワードの数を1280個から1680個に増加。

アリゾナ州はライオンズクラブ国際協会の創設者メルビン・ジョーンズが誕生した地。国際理事会のメンバーはフォートトーマスにあるメルビン・ジョーンズ記念碑を訪れた

奉仕事業委員会

1. 複合地区及び地区リーディング・アクション・プログラム（RAP）委員長職を2015-2016年度より設置。全ての協議会及び地区ガバナーに対し、1年任期によるRAP委員長を任命することが奨励される。
2. レオクラブ諮問パネルにおいて2014年11月～2016年10月の任期でメンバー及び補欠メンバーとなるレオ及びライオンを選任。
3. ベスト・レオ賞の英名「Leo of the Year Award」を「Leos of the Year Award」に変更。（「Leo」という単数形の英単語を複数形の「Leos」に変更）

※上記決議事項のいずれかに関する詳細は、国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）でご覧頂くか、国際本部にお問い合わせください。

（31㌻から続く）

7. 2015年7月1日をもって、理事会方針書第9章C項4.gを全文削除することを承認。トロントにおける理事会会議での合意に基づき、2015年7月1日より地区ガバナーの事務経費は払い戻しの対象ではなくなるが、車での移動による走行距離に対する払い戻し増額が承認された。この項目の削除は、こうした変更を反映するもの。
8. 理事会方針書第12章E項1に事務処理的な修正を加えることにより実際に行われていること、及び現在の肩書を反映させるために旅行規定を更新することを承認。
9. 理事会方針書第12章E項4、I項3、I項5を削除。これらの方針が従業員ハンドブックに記載されていることと財務上の影響を及ぼすものでないことからの処置。
10. 理事会方針書第9章C項2.bの「の規定」を削除する事務処理的修正を承認。
11. 第22章E項b.(3)に事務処理的修正を加えることによる、ホテル宿泊費及び食費の払い戻しの明確化を承認。
12. 理事会方針書第11章D項2.a の「この予想は支出が収入と同額であるか、支出が収入より少額となる。」という文を削除。これは、赤字は一般資金投資の資金で補填するという国際協会の長期戦略計画と矛盾する内容。
13. 理事会方針書第22章C項を、2015年7月1日をもって改定し、国際理事、元国際会長、元国際理事の地区内予算最高限度額をやや増加することを承認。改定内容は下記の通り。
    国際理事　6,200～9,000㌦
    元国際会長　8,000～10,000㌦
    元国際理事　3,000～4,000㌦

LCIF

1. 人道支援資金に関するターゲットアロケーションを改定し代替ターゲットアロケーションを更に明確にすることにより、また、数カ所に運営管理上の変更を加えることにより投資方針声明文を改定。
2. 総額2,740,733㌦となる合計56件の一般援助交付金、国際援助交付金、四大交付金申請を承認。
3. 「ライオンズ - スペシャルオリンピックス・ミッション・インクルージョン」プログラム向け2015年度予算として、1,563,300㌦の障害者援助四大交付金を承認。
4. ライオンズ・アガ・ハーン開発ネットワーク植樹イニシアチブ向け2015年度予算として、10万㌦の理事会指示四大交付金を承認。
5. 2015年人道支援大賞受賞候補者選択の権限を、ライオンズクラブ国際協会執行役員に付託。
6. 321-C2地区から新たに提出される全ての交付金申請に対する検討を一時停止とし、この処置を即時有効とすることを決定。 更に、321-C2地区に対して、GA10907/321-C2事業用に支給された資金を全額、2014年12月31日までに返済することを要求し、これが行なわれなかった場合には、2017年7月1日まで検討一時停止とすることを決定。
7. 予算管理、LCIF経費、交付金承認方針、財務報告に関する箇所に事務的な更新を複数加えることにより、LCIF運営方針書第2章（運営）を改訂。
8. 10万㌦が一般援助交付金として申請可能な額の上限であるとの事務的な更新を加えることにより、LCIF運営方針書（交付金）を改訂。
9. 理事長メダルの受賞基準とこれがLCIFから授与されるアワードのどこに位置するかについての情報を含めることにより、LCIF運営方針書別紙D（表彰の種類）を改訂。
10. 投資方針声明文の改定内容を反映させるため、理事会方針書第16章B項（人道的奉仕援助交付金支出に関する財務方針）を改訂。
11. 理事会方針書第16章E項（一般経費払戻し方針）の、車による旅行に関する箇所を改訂。
12. 法律に準ずるものとするため、理事会方針書第16章F項（寄付基金）を改正。
13. 投資方針声明文の改定内容を反映させると共に不必要な文言を削除するため、理事会方針書第16章I項（投資）を改訂。

リーダーシップ委員会

1. 北米の有資格のライオンを対象とする講師育成研究会の2014-2015年度実施を承認。
2. アメリカ・ハワイ州ホノルルにおける2015年地区ガバナー・エレクト・セミナーのカリキュラム計画及び日程を承認。
3. 中央・東ヨーロッパの有資格のライオンを対象とする講師育成研究会を2015年5月に行うことを承認。
4. アフリカの有資格のライオンを対象とする芽生えるライオンズ・リーダーシップ研究会（2015年早期に開催予定）へのカリキュラム及び資金援助を承認。
5. 会則及び付則委員会に、2015年国際大会で代議員投票に付する付則改正案の文言起草を要請。これは国際

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）

人道奉仕を支える私たちの財団

1968年に創設されたLCIFは間もなく50周年の節目を迎える。視力保護、災害救援などライオンズの人道奉仕事業を支えるLCIFに対して、日本ライオンズは大きな貢献をしてきた。50周年献金目標の達成に向けて、更に理解を深めた上で協力してほしいと語る。

■**栢森新治**（LCIFステアリング委員会委員／元国際理事）　■聞き手／**寺越愼一**（ライオン誌日本語版委員会委員長）

ステアリング委員会の役割

寺越　LCIFについては、前国際会長が理事長を務め、LCIF執行委員会が交付金事業の審議などに当たっていることは概ね理解されていると思いますが、栢森元国際理事が委員を務めておられるステアリング委員会のことはご存じないメンバーが多いと思います。

栢森　では初めに組織について説明させてください。まずLCIFの意思決定に責任を負うLCIF理事会があり、実質的な審議決議機関であるLCIF執行委員会があります。ここまでは現職の国際理事会メンバーが構成員です。LCIFステアリング委員会は執行委員会をサポートしてその機能を高めるため、2011年度に設置されました。委員には各会則地域とアフリカから1人ずつ、それに会員数上位の2カ国、会員1人当たり献金額の上位2カ国からそれぞれ1人ずつ元国際会長または元国際理事が選ばれており、私は献金額上位の日本の代表として任命を受けました。年3回開かれる会議ではLCIFのプログラムや開発、PRなど多岐にわたる懸案事項を討議し、執行委員会に助言を行います。

寺越　最近検討された懸案には、どのようなものがありますか。

栢森　今年度から新たに地区や複合地区のリーダーを対象にアワードが設けられ、献金目標を達成された地区ガバナーと地区コーディネーター、複合地区議長と複合地区コーディネーターに授与されることになりました。これはLCIF理事長の方針を受けて、ステアリング委員会で検討してまとめたアワードの要件を執行委員会に提出し、一部修正された上で決定されたものです。このアワードでは地区の献金額に応じて5段階のレベルでLCIF理事長メダルが授与されます。複合地区では半数以上の地区が目標レベルに達した場合に授与されます。LCIFへの協力を増やすのには、やはり地区や複合地区のリーダーの指導力によるところが大きいですから、それに報いるのがこのアワードです。

LCIF50周年に向けて

寺越　国際協会では2017年の100周年に向けて1億人に奉仕する記念奉仕チャレンジを開始しましたが、LCIFも同時期に50周年を迎えます。既に記念の献金目標が掲げられていますが、どのような計画が進められているのでしょうか。

栢森　LCIFは設立以来、世界中の人道奉仕のために8億ドルもの資金を交付してきました。例えばカーター・センターと提携して取り組んできた河川失明症への対策では、南米のコロンビアでこの眼病の根絶が確認されLCIFが高い評価を受けました。こうした視力保護や災害救援、青少年育成、はしかとの戦いといった分野でライオンズの支援をより充実させていくために、50周年の年には年間5千万ドルの資金を集める目標を掲げ、12年度から6年間の献金計画がスタートしています。これは直前3年間の献金総額をベースに10・2%増加するという目標設定です。

寺越　日本の目標は、ベースとなる期間に東日本大震災への多額の献金があったことを考慮して5%増と設定されていますね。ライオン誌ではLCIFエリア・コーディネーターの依頼を受けて、毎月、国内各地区の目標達成状況を掲載しています。

栢森　日本は初年度の動きが鈍かったものの、その後は順調に目標に向かっています。

以前、『フィナンシャル・タイムズ』の分析でライオンズクラブが国際ボランティア組織の中でナンバー1の評価を受けたことはご存じの通

りです。これは説明責任や情報公開などＬＣＩＦの信頼度が高く評価された結果でした。このランキングでロータリークラブは第５位でしたが、資金総額はＬＣＩＦの４倍近くに上っていました。何も金額で競おうというわけではありませんが、ナンバー１と評価されたライオンズとして、もっと多くの資金を集めて世界に貢献していこうという気運が、50周年の目標の背景にあるのです。

寺越　今のお話にあったロータリーとの比較については初めて知りました。ナンバー１という言葉から自分が理解していたのとは、ちょっと違うなという感じを受けました。

まずは正しい理解から

栢森　そうしたことは他にもあると思います。皆さんは日本がＬＣＩＦの最大の貢献国だと理解されていると思います。確かにその通りですが、以前は世界の献金総額の約50％を日本が占めていたのが、現在は17％から18％になっています。昨年度の国別献金総額は日本が最多でしたが、地区ごとの会員１人当たり献金額の上位４地区と、クラブの献金額の上位５クラブは全て台湾でした。もう一つ、日本は献金するばかりで交付金を使っていないと思っている方が多いようですが、地区の申請による交付事業の件数が最も多いのは日本です。また東日本大震災に対しては２１００万ドルの資金が交付されました。日本からの申請に多いのは東南アジアなど発展途上国での事業で、非常に有意義に交付金を活用していると思います。今年６月のトロント国際理事会で一般援助交付金の基準が変更され、申請額の下限が１万ドル、上限10万ドルとなりましたから、途上国ではかなり大きなインパクトのある事業を実施することが出来ます。

寺越　日本への交付件数が最も多いというのも初めて知りました。おっしゃる通り正しく理解されていない点が多いように思います。例えば先ほどお話に出たコロンビアでの河川失明症の撲滅といった大きな成果は、会員だけでなく社会一般にも広く知らせることで、ライオンズの理解にもつながるのではないでしょうか。

栢森　ＬＣＩＦの献金は全額が人道奉仕に活用されて、世界中で支援を必要とする人々のために役立てられます。財団の運営は投資利益だけで賄われているので、献金は全て交付金として使われるのです。そうした点もよくご理解頂いて、協力して頂きたいと思います。

LCIF FILE

Foundation Impact / SightFirst Update / LCIF Development Update

Foundation Impact

ケニアに届いたオープニングアイズ・プログラム

LCIFとスペシャルオリンピックス（SO）が世界規模で取り組む「ミッション・インクルージョン」活動は、世界80カ国以上のアスリート（選手）とその家族に健康問題に関するサービスを提供している。2001年以降、SOはLCIFや世界各国のライオンズクラブとパートナーシップを結び、知的障害者の家族や介護者に対して視力検査の無償提供や、健康に関する教育を実施してきた。そして今回新たにアフリカのケニアがこの活動に加わることになった。

9月にケニアで開かれた覚書への署名式典には、山田實紘国際第1副会長が出席。SOケニアの関係者や、ケニアのライオンズが見守る中、デイビンダー・エアリ411-A地区ガバナー、ライオンズ視力ファースト眼科病院のサムソン・エンデグワ理事長、そしてSOケニアの国内ディレクターであるジョン・マカチモ氏がそれぞれ署名を行った。更に式典の後には、オープニングアイズ・プログラムが実施され、100人以上のアスリートが視力検査を受けた。

ケニアにおけるミッション・インクルージョン活動は、オープニングアイズ・プログラムの発展と充実を第一の目標に置き、知的障害者とその家族に対して質の高い視力検査を提供するなどサービスの継続を目指す。これに対して、ケニアのライオンズは、少なくとも年間100人の会員をオープニングアイズ・プログラムやファミリー・ヘルス・フォーラムに動員し、奉仕活動の充実を図る方針だ。これが実現すれば、年間500人のアスリートに対し適切な視力検査と、その後の経過に応じたアフターケアを用意することが出来る。その他にも、障害者と健常者が一緒に参加することが出来るスポーツ・イベントの開催を企画。地元のレオやライオンズとアスリートが共に汗を流す場を設ける考えだ。

SOとライオンズは、スポーツと奉仕活動の融合が、知的障害者支援の現状を変えていく原動力になると信じている。更に、SOのサポートと知的障害者支援に特化したチャンピオン・ライオンズクラブが、アフリカで初めて結成されることが決まった。この新クラブは、LCIFとSOが提携を始めてから12番目に誕生したチャンピオン ライオンズクラブとなる。

（エリック・マルグレス）

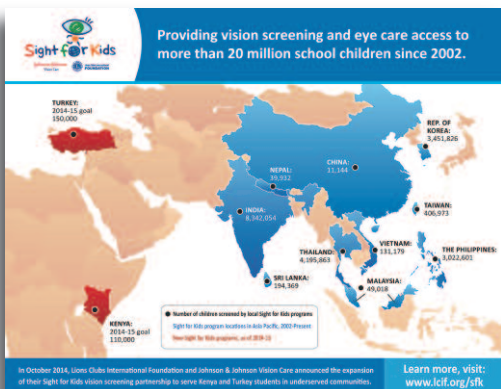
SightFirst Update

拡大するアジア発のサイト・フォー・キッズ

眼鏡をかけると、子どもたちはきまって笑顔になる。まるで魔法のようにはっきりと世界を見渡すことが出来るからだ。本を読んだり、スポーツに励んだりと、子どもたちの活動範囲は無限に広がっていく。そこが、何よりも重要なのだ。

LCIFとジョンソン&ジョンソン・ビジョンケア・カンパニー（JJVCC）は2002年からサイト・フォー・キッズ（SFK）を実施、地元のライオンズやJJVCC社員、医療関係者が協力し、教員が視力検査を行えるよう指導したり、目の健康に関する講義を行ったりして、サービスの行き届かない地域でも適切な視力検査が受けられるよう環境整備に努めている。また、視力矯正が必要な生徒に対しては、眼鏡を処方したり治療を施したりするなど、地元の眼科医や専門家による十分なケアを無償で提供している。

アジアで始まったこの活動は現在、ケニアとトルコにも広がっており、恵まれない地域で生活するおよそ2千万人の子どもたちが、このプログラムの恩恵を受けている。

Lions Clubs International
FOUNDATION

ケニアでは、2万人以上の子どもたちが視覚障害と診断されている。SFKケニアでは、視覚障害や目の病気などの早期発見と迅速な治療を施すことを目標としており、2014年中にナイロビ地区の教員1100人を対象に目の健康と視力検査に関する指導を行う。指導を受けた教員たちは、55の学校で生徒たちに基本的なアイケアに関する情報や、視力検査を提供することになる。

2002年、トルコ南西部で実施された小児眼科に関する調査によると、視覚障害を持つ児童のおよそ70%は、予防可能あるいは治療可能な症例であった。SFKトルコでは、アンカラ地区の1500人の教員に対してトレーニングを実施、500の学校で延べ15万人の児童たちに視力検査と目の健康に関する教育を提供することを目標としている。

トルコやケニアで実施されているSFKは、地域住民の生活に多大な影響を与えている。この活動が広がるにつれ、より多くの子どもたちが視力を回復し、世界中が子どもたちの笑顔で満たされていくに違いない。

（アリー・ローレンス）

LCIF Development Update

LCIF創設50周年記念目標達成への道⑤

LCIF創設50周年記念目標に対する10月度の日本の総献金額は6552万4840円で、前月比では48・4%と残念ながらペースダウンしてしまいました。通算28カ月では左表の通り16億5756万9192円となり、目標達成率は先月から2・7ポイントアップの67・4%となりました。

地区別では331-B地区が前月比13・4%増を記録し、目標完遂に到達されました。目標を上回ったのは332-C、332-D両地区に次いで3地区目となりました。また330-A地区が献金額約12%増で目標達成率を6・8ポイント押し上げる一方、献金ゼロの1地区を始め目標達成率の伸びが1%を下回っている地区が10地区あり、心配なところです。

残り8カ月、目標達成に向け、ご協力賜りますよう切にお願い申し上げます。（LCIF国際委員、エリア・コーディネーター／桜井孝一、澁田繁晴）

■LCIF創設50周年記念目標

地区別献金目標額と目標達成への必要額（円） 2014年8月31日現在

地区	3年間目標額	献金実績	達成率	目標達成必要額
330-A	78,610,732	50,242,470	63.9%	28,368,262
330-B	155,407,170	120,594,789	77.6%	34,812,381
330-C	28,515,146	15,847,974	55.6%	12,667,172
331-A	74,301,215	62,605,114	84.3%	11,696,101
331-B	24,988,116	25,885,427	103.6%	★目標完遂
331-C	29,900,483	10,579,593	35.4%	19,320,890
332-A	25,714,137	18,220,201	70.9%	7,493,936
332-B	26,621,140	18,256,560	68.6%	8,364,580
332-C	19,678,628	26,318,125	133.7%	★目標完遂
332-D	36,951,532	43,037,260	116.5%	★目標完遂
332-E	13,525,171	12,549,147	92.8%	976,024
332-F	9,148,074	5,782,824	63.2%	3,365,250
333-A	45,735,000	29,703,647	64.9%	16,031,353
333-B	33,824,952	23,688,598	70.0%	10,136,354
333-C	47,912,696	42,514,286	88.7%	5,398,410
333-D	41,663,400	31,365,140	75.3%	10,298,260
333-E	67,666,459	53,829,480	79.6%	13,836,979
334-A	343,652,981	262,480,501	76.4%	81,172,480
334-B	82,442,179	66,384,718	80.5%	16,057,461
334-C	62,778,240	48,166,335	76.7%	14,611,905
334-D	56,337,691	51,421,205	91.3%	4,916,486
334-E	52,984,008	42,672,494	80.5%	10,311,514
335-A	27,011,634	24,282,144	89.9%	2,729,490
335-B	267,297,822	116,208,066	43.5%	151,089,756
335-C	139,334,483	64,612,858	46.4%	74,721,625
335-D	26,881,392	25,910,130	96.4%	971,262
336-A	105,422,415	59,274,657	56.2%	46,147,758
336-B	54,205,075	23,242,615	42.9%	30,962,460
336-C	82,736,682	60,254,560	72.8%	22,482,122
336-D	44,545,115	31,416,631	70.5%	13,128,484
337-A	158,338,840	78,897,691	49.8%	79,441,149
337-B	47,676,318	32,872,932	69.0%	14,803,386
337-C	69,087,180	38,261,340	55.4%	30,825,840
337-D	49,155,427	25,080,146	51.0%	24,075,281
337-E	22,580,621	15,109,534	66.9%	7,471,087
全国	2,460,507,153	1,657,569,192	67.4%	802,937,961

東日本大震災 復興だより

●岩手県大槌町

335－B地区第5リジョン合同支援活動

大阪府北摂（ほくせつ）地域の豊中、池田、箕面、吹田、能勢の4市1町にある335－B地区第5リジョンの13クラブは10月25日、合同で大槌町を訪問、支援活動を実施した。

この活動は、能勢ライオンズクラブが震災以来継続して取り組んでいる「能勢米百俵」事業（本誌2014年11月号12ページ掲載）と、吹田ライオンズクラブが昨年度実施した布団乾燥事業（本誌14年9月号16ページ掲載）が合体。更に趣旨に賛同した第5リジョンのクラブが加わり実現した。

また、能勢ライオンズクラブは青少年に被災地の現状を見聞きする機会を提供しようと、この活動に能勢町の中高生38人を同伴。これに地区内の大学生レオ4人が、レオクラブ関係者らの協力により参加し、そのリーダー役を務めてくれた。

当日は午前中から、吹田、吹田江坂両クラブの会員たちが、約10時間を掛けて運んできた布団乾燥車で、大槌町小鎚地区に点在する仮設住宅団地を巡回。午後からは、能勢、箕面船場両クラブ会員や、城阪勝喜335複合地区議長、北畑英樹地区ガバナーを始めとした335－B地区キャビネット役員らが合流。大槌ライオンズクラブの会員と、大槌の復興支援団体・和RING・PROJECTのスタッフが案内役を務め、ライオンズとレオ、高校生が6班に分かれ、能勢米及び大阪名物蓬莱本館（代表取締役・ライオン東進明／大阪戎橋ライオンズクラブ）の豚まんとシュウマイを仮設住宅の各家庭に届けた。また、今回は大槌ライオンズクラブのアドバイスで在宅被災者にも目を向け、同町桜木町地区でも豚まんとシュウマイの支援を行った。

一方、中学生たちはこの日、城山体育

館で開催されていた大槌中学校の文化祭にゲスト参加。同校生徒による語り部プロジェクト「今、被災地から伝えたいこと」を聞いたり、合唱を披露したりして交流を行った。

（取材／鈴木秀晃）

●岩手県大槌町

和RING-PROJECT

大阪のライオンズによる合同アクティビティの際、高校生やレオたちを車に乗せ、仮設住宅を回ってくれたのが、和RING-PROJECTの皆さん。

和RING-PROJECTは被災した人たちが、自宅や自宅周辺のがれきを拾い集めて、一つひとつ手作業で作った「がれきのキーホルダー」事業からスタート。2013年10月には、LCIF東日本大震災指定交付金を受け、大槌町小鎚地区に「シェアファクトリー」を開所した。そんなこともあり、大槌ライオンズではライオンズ関係の支援事業があった場合、和RING-PROJECTにも声を掛け、出来るだけ協力してもらっている。この日も10人近いスタッフの方が、休日返上で参加してくれた。

シェアファクトリーのオープンから1年経った現在は、工房を自力で拡張して大型の工作機械も入れ、本格的に製作を始めている。そして、秋田県五城目町の職人から技術を学んだり、大学機関と連携して製品作りに当たったりして、技術も製品の質も飛躍的に向上させている。

※震災の日、大槌の浪板観光ホテルに宿泊していた五城目のお年寄りらは従業員の誘導で避難。直後、ホテルは津波に襲われ、客の避難を見届けた社長のL山崎龍太郎（大槌ライオンズ）と料理長が犠牲になった。その後、お年寄りたちはホテルのバスで無事帰宅。感謝した五城目町では町を挙げて大槌を支援している。

ライオンズは支え合う大きな木

大内 宏之
（宮城県・山元ライオンズクラブ）

おおうち・ひろゆき　1967年宮城県山元町生まれ。㈲大一生コン専務取締役。02年山元ライオンズクラブ入会。10、11年度クラブ会長。14年度クラブ第1副会長。

小雪が舞い、北風が吹く。電柱は折れて中の空洞が見えていました。新築の住宅の窓に松の木がびっしりと突き刺さり、どの家も一緒くたでした。助けを求める人が待っています。道路は歪み、橋には段差が付いて普通の乗用車では走れません。目の前でショベルカーが、がれきとなった住宅や電柱を壊して道を作っていました。私の足元には、亡くなって毛布にくるまれた人が3人。1人は小学生ぐらいでした。

私がライオンズで初めてクラブ会長になった年度でした。私は消防団員で、警察や自衛隊の方たちと共につぶれた家の屋根を乗り越え、行方不明の人たちの捜索に当たる日々でした。目印になるものが無いと目的地の判定が難しいことを初めて知ったのもその時です。ヘリコプターが引っ切りなしに飛び交い、高い空から津波を警戒しています。塩竈のコンビナート火災の煙が見える海岸に近い場所の捜索に当たっていた時に、福島第一原発の建屋が爆発しました。

それを知ったのは夜になってからです。その頃携帯電話は通信規制で使い物にならず、余震や津波の情報は消防自動車についているラジオだけが頼りでした。水が引かない場所が無数にあり、水には絶対に入るなと言われていました。農薬やガラス片、むき出しになった鉄筋でケガをしても薬が不足して治療出来る見込みが無かったからです。中でも一番危険なのが、破損し水に漬かったハイブリッド車です。朝、前日は居なかったはずの人が倒れていて、感電事故で亡くなっていました。

ここから福島原発まで約50キロ。風向きが南に変われば、明日にも避難が始まります。クラブの進退について話し合わなければなりません。会員の中には被災して家屋が全壊したメンバーもいるし、誰もが家族や親戚や友人を亡くしていました。当然、仕事の見通しも立ちません。クラブで最年少の私に、この大変な時期の会長が務まるのでしょうか。

クラブの会員が顔を合わせたのは、震災から2週間後のことでした。クラブ旗もゴングも失われ、皆の顔も暗く沈んでいました。この時、地区キャビネットとの関係が深いということで、私が次年度も引き続き会長を続けることが決定しました。

それからは、私が支援物資の受け渡しの仲介を一手に引き受けることになりました。クラブはギリギリのところで存続している状態で、いつも不安が影のようにつきまとっていました。

山元町は原発の影響で全町避難となる可能性があり、メディアの受け入れを断っていたため、報道から漏れた存在になってしまっていました。そんな中、4月1日に334-B地区（岐阜県、三重県）のメンバーが直接、初めての支援物資を運んできてくれた時のことは絶対に忘れられません。彼らの手は温かかった。本格的な支援が行われるようになったのはそれからでした。

自宅の近くにリンゴ畑があります。1本に見えるリンゴの木は、実は複数の根っこを接ぎ木して支えています。たくさんの大きな実を付けている姿を見て、ライオンズを連想するのは私だけでしょうか。左提右挈（さていゆうけつ）の木。それがライオンズクラブです。

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領：
会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

ノーマライゼーション

迫　英治（熊本県・菊池）

「ノーマライゼーション」という言葉がある。1960年代に北欧から始まった、社会福祉を巡る理念の一つである。その考え方として、障がい者と健常者は、お互いが区別されることなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、望ましい姿であるとしている。

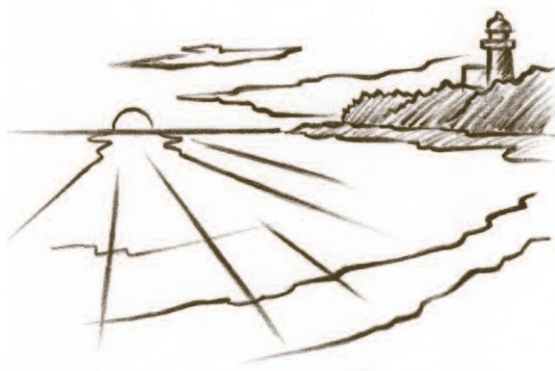
昨年9月、白杖を持って歩いている視覚障がい者の女子生徒が、後ろから蹴られてケガをするという事件があった。このニュースを聞いた時には大きな衝撃を覚えたものだ。

ある時、玉川孝元337‐E地区ガバナーから「白杖はライオンズクラブが始まりだよ」と教えて頂いた。ライオン歴が浅い私は、そんなことは露とも知らなかった。

ライオン玉川から聞いた後、自分なりに調べてみると、1925年、ライオンズクラブ国際大会において、かのヘレン・ケラー女史が「ライオンズクラブの皆さん、闇を開く十字軍の騎士になってください」と呼び掛けた。それに呼応して全世界のライオンズクラブによる視覚障がい者福祉活動が始まり、現在に至っている。その中で、30年にアメリカ・イリノイ州ピオリアライオンズクラブのジョージ・A・ボーナム会長が白杖を考案し、寄贈したのが始まりとされている。

話を元に戻すと、障がい者や社会的弱者を保護する仕組みが「福祉」と言われるものであるが、近年それを更に発展させて、障がいを持っていても、一人の人間として、健常者と同じように当たり前に生活出来るような社会を構築しようとする取り組みが日本でも行われている。すなわちバリアフリー化などの推進による、障がい者のこうむる社会的参加制約を緩和しようとする取り組みだ。これこそがノーマライゼーションである。

障がいがあると何も出来ないと思いがちだが、世の中には障がいをものともせずにがんばっている人がたくさんいる。例えば熊本県では、県立盲学校のアンサンブル部生徒さんたちのがんばりには目を見張るものがある。同部はかつて、全国アンサンブルコンテスト出場校の中で唯一の盲学校であるにもかかわらず、名立たる強豪校を抑えて堂々の金賞を受賞したことがある。それがいかにすごいことなのか、なかなか想像出来ないと思う。彼らは目が見えない。ということは楽譜が読めない。楽器も見えないし指揮者もいない。ではどうするか。生徒たち一人ひとりが呼吸を合わせ空気を読み、演奏を始めるのである。指導された先生も大変だったと思うが、それ以上に生徒たちのがんばりがすばらしい。このエピソードは『息を聴け』（著者・冨田篤）という本にもなった。

昨年度、我が菊池ライオンズクラブは結

イラスト／小川和政

成50周年を迎えた。その記念式典において、県立盲学校アンサンブル部による演奏を、ご参加の皆様に聴いて頂く機会を得た。その演奏は障がいがあるとは思えないすばらしいもので、聴衆を感動の渦に巻き込み、とりこにした。演奏終了後、皆から一様に「本当に目が不自由なのか?」と、驚きの声が上がった。

そして今年度、当クラブの戸高八徳前会長と人吉ライオンズクラブのライオン冨永雄二が、「1年経った今でも、あの演奏が頭から離れない。あの子たちのために私たちに何か出来ることはないか?」と全く同じことをおっしゃった。お二人とも、目が不自由でも一生懸命にがんばっている姿を見て、大変感銘を受けたそうである。

このように、障がいがあっても人を感動させるほどがんばっている方々もたくさんいるのである。願わくば、これから先ノーマライゼーションが世の中に浸透していくことを願う。街中で障がいがある方が困っている時は、見掛けた人が助ける。また逆に障がいがある方は、遠慮せずに近くの人に頼れるような社会になってほしい。そうすることでお互いに理解が深まり、障がいがある方にも優しい社会が出来ると思う。そして、障がいがある方々が大いに表に出て社会貢献していければ良いと思う。障がい者が暮らしやすい社会は、健常者にとっても暮らしやすいはずである。

家族会員として入会して

左近充 昭子（東京葛飾）

一昔、と言っても1987年9月ですが、主人が東京葛飾ライオンズクラブに入会しました。主人の「今までのご恩返しのために奉仕をがんばるんだ」の一言で、初めは何のことやら意味も分かりませんでしたが、とにかく私も付いていくことにしました。ライオンズクラブって何だろう、という気持ちが心の隅にありました。

主人がライオンズに入会して27年間、私も奉仕という観念から協力を惜しまず、出来る限りのお手伝いをしてきたつもりです。チャーター・ナイト、クリスマス例会等の特別例会には、必ず同伴出席してお仲間入りさせて頂きました。また献血奉仕にも出席し、クラブの皆さんも私が出席することが当然のように考えてくださるようになり、最近は「私も東京葛飾ライオンズクラブに入会しようかなぁ」なんて思うようになっていました。そしてこの度、塩月藤太郎330‐A地区ガバナーから当地区会員数を1万人に増やそうという方針が示されたのに合わせて、私と長男の2人が家族会員として入会させて頂くことになりました。

去る9月30日、第5リジョン内クラブ合同のガバナー公式訪問が上野の東天紅で開かれ、この機会に初めてライオンズ・メンバーとして参加させて頂きました。塩月ガバナーを始めキャビネット役員、地区委員、各ゾーン5役、そしてメンバーの皆様方に囲まれて、その迫力に圧倒されそうでした。役員の方々の熱心なご発言に続いてガバナーのごあいさつがあり、その中で会員増強に大変な努力をしておられることを知り、心を打たれました。

続いて、東日本大震災からの復興に大変心を寄せておられることを伺いました。

女性会員の増強と育成、また青少年健全育成にもより以上の努力を、と熱望されるのを聞き、ライオンズクラブの神髄を心から感じさせられました。

式の半ばで新入会員として壇上に導かれ、塩月ガバナーから新しいピンを手渡された時は、「ライオンズに入って良かった」と心から思いました。

そして最後に「また逢う日まで」を皆さんと合唱して会合は終わりました。「隅々まで行き届いた奉仕」、それがライオンズだと思います。クラブのため、そして世の中を明るくする奉仕団体の一員として、今後も一層がんばっていくつもりです。

専門的な人材の育成を目指して

若林 一（千葉・木更津金鈴）

8月23日、千葉県経営者会館にて、波木奏美333‐C地区ガバナーの下、公認ガイディング・ライオン研修会が開催されました。講師は地区GLTコーディネーターである私が務めました。333‐A地区からも2人が参加され、総勢55人が受講しました。

従来ガイディング・ライオンという役職は、地区エクステンション委員長並びにスポンサー・クラブ会長の助言を得て、ガバナーによって新クラブの誕生とその指導に当たるよう任命されてきました。ガイディング・ライオンによる支援を更に強化するために、国

際協会が開発したのが「公認ガイディング・ライオン研修コース」です。

当地区内を見渡した時、活発で大きな成果を上げているクラブもありますが、多くは会員の高齢化と共にかつての勢いを失い、会員増強も思うように出来ずにいます。

クラブを活性化させるには、会員増強、特に女性会員を増やし、女性特有の気配り、目配り、心配りを活用し、新しい風を吹き込む必要があると思います。このようなクラブを正しく指導し、豊富な知識と経験で活性化のための施法を提供するのが、公認ガイディング・ライオンです。

研修の目的は、公認ガイディング・ライオンを誕生させ、次の結果に結び付けることです。

1．新クラブの結成前後に、より正しい指導と支援を行う

2．結成から2年間、特にチャーター・ナイト終了後も、専門的な知見を持って新クラブを育てる

3．会員が高齢化し会員増強も思うように出来ない、アクティビティも活性化しない、そんなクラブを元気にする

4．すばらしい運営をしているクラブに対しては、更に活性化するためのノウハウを提供する

5．地区内各リジョン、またはゾーンに最低1～2人の公認ガイディング・ライオンを育て、諮問委員会を始め、機会あるごとに気軽に勉強会が出来るようにする

6．近年国際協会は毎年新プログラムを設定している。最新の情報をより早く手に入れ、クラブに提供する

今回の研修コースでは時間的な制約があり、きめ細やかな研修が出来ませんでした。そこで、公認ガイディング・ライオンの心構えと目的をしっかり自覚して頂くことと、知識はその都度国際協会のホームページから入手出来るよう、情報の取得方法に時間を掛けました。またワークショップでは、ブレーンストーミングの手法を用い、参加者に多くの意見や活発な発表をして頂きました。

今後は地区ガバナーが専門チームを結成し、今回の研修で学んだことを生かすべく、活躍の場を増やす計画です。そしてGLTではクラブ強化の手法を学ぶためのCEP（クラブ向上プロセス）研修会も開催する予定となっております。各クラブには積極的な参加を望みます。

専門的な人材の育成に力を入れ、ライオンズの目的である地域のニーズに沿った、充実した奉仕の出来るクラブ運営、更に地区の発展に寄与出来るよう、GMTとも連携しメンバー一同更なる研鑽（けんさん）に励みます。

年を重ねた古参会員に朗報の家族会員増強制度

伊賀　則夫（東京葵）

塩月藤太郎330‐A地区ガバナーは今期、会員を5千人増強し、1万人にしようという目標を打ち立てました。小川晶子地区会員増強委員長の下、所属委員を２１０人体制にしました。当地区の全２００クラブから1人ずつ会員増強委員を選出してもらうことにしたのです。また、小川委員長は14有るリジョンにもそれぞれ1人の副委員長を作りました。私はその内の一人です。

この数年当地区では、ガバナー公式訪問はリジョン単位で行う傾向にあり、

今期も14回（プラス1地域）の公式訪問がありました。公式訪問を仕切るのは、リジョン・チェアパーソンとゾーン・チェアパーソンです。

ガバナー公式訪問ではクラブ会長・幹事との事前懇談会が最も大切な情報交換の場ですが、ここに副委員長を呼んでくれるリジョンと、呼んでくれないリジョンがあります。私の所属している第1(リジョン)は前者で、幸いにも私の席を塩月ガバナーに近い場所に用意してくれたのです。ガバナーのごあいさつの直後に、会員増強副委員長の時間を設けてくださいましたので次のようなお話をさせて頂きました。

「年を重ねると増えていくものと減っていくものがあります。減っていくものは友人・知人、増えていくのは思い出です。が、もっと大切なものが増えていることにお気付きでしょうか。それは『家族』です。息子がもらった嫁の家族や、娘が嫁いだ先の家族がその典型です。

どのクラブでも同じことが言えると思いますが、年配の会員に会員増強を頼むのは酷ではないでしょうか。なぜなら、友人や知人はどんどん減っていっているのですから……。我が東京葵ライオンズ(クラブ)も例外ではありません。ある意味、年配の会員たちは忸怩(じくじ)たる思いを持っておられたのではないでしょうか。

山田實紘国際第1副会長が来る6月に国際会長に就任なさいます。山田国際会長に思う存分仕事をして頂くためにも、おひざ元である日本ライオンズが世界の手本になって会員増強を率先垂範しなくてなりません。(ライオン)山田を国際会長に押し上げた我々日本のメンバーには、その責任があるのです。

そうした状況の中、家族会員パイロット・プログラムは、年を重ねた年配のメンバーの皆さんに訪れた千載一遇のチャンスと言えるのではないでしょうか。家族会員は、若い方々よりも年配の皆さんの方がはるかに増やしやすい環境を持っていらっしゃるからです。

ライオンとして一般の正会員以外は認めないとか、家族会員なんて邪道だとか声高におっしゃる先輩会員が大勢おられることは承知しています。が、その方々に申し上げたいのです。家族会員を認めない人で、正会員を増やしている人はほとんどいないように見受けられます。正会員をスポンサーしている人は、スポンサーになることの難しさを誰よりも知っているのです。家族会員プログラムは、1人の世帯主がいわゆる子会員を4人まで登録出来る、実にありがたい制度です。これに異を唱える人は、一般の正会員を4人増やしてから反対をして頂きたいものです。『山田国際会長に十分な働きをして頂くため』。ただその一点のために協力をして頂きたいのです」

330・A地区は、塩月ガバナーの並々ならぬ決意が小川会員増強委員長を動かし、大きな成果を生みつつあります。この10月には第1段階、6千人の大台を突破しました。そして来年の6月には1万人の達成を夢見ています。

全国の年配の会員さんに申し上げます。年寄りパワーを発揮するのは「今でしょ！」。よろしくお願いします。

Close up

再生古民家で子どもたちに里山体験を

ここ刈羽村の油田（あぶらでん）という場所は、国道から一本入った静かな里山です。地名の通り昔は油が出たそうで、多い時には80軒近くの家がありました。ところが、道路が整備されて交通の便が良くなると過疎化が進行。昔話に出てくるような茅葺き屋根の家屋も20軒ほどありましたが、気付いた時には1軒を除いて全て消滅。唯一残った築130年ほどのこの古民家も、人が住まなくなってから十数年経っていたため、床は腐り、屋根の茅も3分の1が崩れ落ちるという有り様でした。

ある日、長岡在住の有志が「何とかこの家を再生させたい」と、集落区長の会長だった私に話を持ちかけてきました。再生して何に使うのかと尋ねると、「子どもたちの体験学習に利用したい」という。そう言われると断る理由はありません。地域の人たちを中心に延べ2千人のボランティアに協力してもらい、囲炉裏や土間、かまどのある4階建て延べ床面積約150平方メートルの古民家を再生。多目的に利用出来る「ひだまりの里」という名で2007年春にオープンしました。

目の前には水田があるので、近隣の小学生を集め、田植えや稲刈りを体験してもらおうと当初から考えていました。皆泥だらけになるので、作業後はお風呂に入ってもらっています。古民家とはいえトイレや台所など水回りは現代の設備。オープンした年の7月16日には中越沖地震に遭い、古民家にも被害がありましたが、避難所として地域住民の方に利用して頂き、このお風呂も大活躍しています。

日本の原風景を思わせるその姿から、映画やドラマのロケ地にもなっている

最近は、子どもが遊ぶにしても大人がその環境を用意してあげることが多い気がします。ここには遊具はありませんが、広い家の中でかくれんぼをしたり、裏山を探検したりと、自分たちで遊ぶ方法を見つけてほしいと願っています。

ただ、これだけ大きいと維持管理が大変。仕事柄、重機で敷地を整備するなどしていますが、まだまだ手が回らないことばかり。手伝ってくれる近所の人たちは皆農家。日中は仕事で忙しく、なかなか古民家に足が向きません。だから目下の願いは、誰かが住んでくれること。この辺は静かでいい場所ですよ。山菜やタケノコも豊富ですし、囲炉裏やかまども使い放題。古民家には光ファイバーも引けますから、仕事上の不便もないはず。皆さん、いかがですか。

■丸山将孝
まるやま・まさたか　1952年6月1日新潟県長岡市生まれ。50歳になった2002年に刈羽ライオンズクラブに入会。「油田ひだまりの里」事務局として、古民家の活用促進に注力している。刈羽村商工会会長、㈲丸山左工代表取締役。

構成／砂山幹博　写真／関根則夫

栃木県日光市(今市)

鶏からあげ

取材で行った今市で、夕食のため駅近くの店に入った時のこと。席に着くなり店の人が、「唐揚げ専門なんですけど」と申し訳なさそうに一言。渡されたメニューを見ると、料理は確かに「鶏からあげ」と「鶏からあげ定食」の二品のみ。開店当初は他の料理も出していたが、唐揚げがあまりに人気で専門店に衣替え。以来、唐揚げ一筋50年という店だったのだ。

定食を注文した後は待つこと15分。出て来たのが、銀色の皿に鎮座ましますコレ。何と半身の唐揚げ！　まずはその偉容にテンションが上がる。しかも味の方も抜群。決め手は秘伝のたれで、ベースにはさっぱりとした味が特徴のしょうゆを使っている。この自家製たれに漬け込んだ若鶏の肉をじっくり揚げる。そのため皮はパリパリ、肉はふっくら柔らかな中にも歯応えがあり、奥まで味が染み込んでいる。客がこればかり注文したのもうなづける。正真正銘のお薦め、ぜひ食べておきたい逸品である。

●「味の大塩」栃木県日光市中央町7-17

ふるさと探訪

大分県 中津市

取材／河村智子　写真／田中勝明

錦秋の耶馬溪と城下町・中津を訪ねる

深耶馬溪、一目八景の鳶ノ巣山

中津

NAKATSU

岩また岩の奇勝 耶馬渓

切り立った岩山を、彩り豊かな紅葉が染める。九州随一の紅葉の名所として名高い耶馬渓（やばけい）の中でも、深耶馬渓の一目八景はモミジやカエデ、ハゼなど落葉樹の種類が豊富で、秋の深まりと共に鮮やかに色を変えていく。岩と木々が織りなす八つの景色が一望出来るという一目八景には、鳶ノ巣山、群猿山、仙人岩などと命名された奇峰や奇岩が連なる。

この一帯は昔は川の名をとって山国谷と呼ばれていたが、江戸後期の儒学者頼山陽が『耶馬渓図巻記』に「耶馬渓山天下無」と詠んでたたえたことから、その名になった。1950（昭和25）年には、天領だった日田、修験道の聖地である英彦山（ひこさん）と共に、耶馬日田英彦山国定公園に指定されている。

広く耶馬渓と呼ばれる地域は本耶馬渓、深耶馬渓、裏耶馬渓、奥耶馬渓に分かれる。太古の昔には九州は南北二つの島に分かれ、この山深い渓谷は海の底だった。火山の爆発によって溶岩台地が形成され、それが浸食されて生まれたのが耶馬渓の奇勝だ。火山の爆発は3回あったと考えられ、流れ込んだ溶岩の性質の違いが景観にも表れている。深耶馬渓の岩はきめ細かで浸食されにくく、岩肌は滑らかで、川底が巨大な一枚岩で出来た渓谷もある。一方、本耶馬渓の岩は浸食されやすく洞穴が生じやすい。

本耶馬渓の見所は山国川に沿って岩峰が並ぶ競秀峰と、その断崖の下に禅海和尚が掘り上げた青の洞門だ。競秀峰の通行路は岩場に並べた板を踏み、鎖を伝い歩く難所で、転落し命を落とす人も多かった。諸国遍歴の途上で人々が難渋する様を見た禅海は、独力で洞門の掘削を開始し、やがて村人も手を貸すようになる。1期工事を終えると、人は4分、牛馬は8分の通行料を徴収して2期工事の費用とし、1764年に全長342メートルの洞門を完成させた。この逸話を基にした菊池寛の短編小説『恩讐の彼方に』で、禅海と青の洞門は一躍世に知られることになった。競秀峰の下には今は国道が通っているが、ノミと鎚だけで掘られたトンネルの一部が保存されている。

禅海の遺品を納めた禅海堂のある羅漢寺も、険しい岩山の中腹にある。縁起によれば、645年にインドから渡来した法道仙人がこの地で修行

大分県 中津市（なかつ）

福岡県との県境に位置し、県内では大分市、別府市に次いで人口が多い県北部の中心都市。市の中心部は周防灘に面し、05年に景勝地の耶馬溪を含む山間部の下毛郡4町が合併し、新しい中津市となった。中津は黒田孝高（官兵衛）が城を築いて以来の城下町。幕末の中津藩出身者には、福澤諭吉や藩医だった前野良沢がいる。現在はNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映に伴って観光客が増加、大きな盛り上がりを見せる。また市内に鶏唐揚げ専門店が多数あることから、近年は「中津からあげ」が注目を集めている。

総面積／491.17平方キロ

総人口／8万5,423人（2014年10月30日現在）

【交通アクセス】

JR小倉駅から中津駅まで日豊本線特急で32分

北九州空港から約1時間。2016年には東九州自動車道の椎田南-宇佐間が開通し、中津インターチェンジも開設される予定

屹立する競秀峰の岩壁の下に青の洞門がある

岩山にへばりつくようにして建つ本耶馬渓の羅漢寺。千体地蔵を納めたお堂の向こうに山門があり、その先にある無漏洞（右ページ上）に五百羅漢が安置されている

八幡総本宮・宇佐神宮の祖宮、薦（こも）神社の内宮は三角池（御澄池）と呼ばれる池で、この池に自生するマコモで作った薦枕が八幡神のご神体とされる。荘厳な神門は国の重要文化財に指定されている

したのが寺の起こりで、平安時代には山岳仏教の霊地となった。1337年、円龕昭覚（えんがんしょうかく）禅師が中国の天台山にならって寺を築いて、十六羅漢と五百羅漢の石像を安置する。江戸時代には、救いを求める多くの人々が競秀峰の難所を越えて参詣した。

　岩肌にしがみつくように建つ山門を入ると、天然の洞窟に五百羅漢が並ぶ無漏洞（むろどう）がある。中央には十大弟子に囲まれた釈迦如来が座し、その説法を聞こうと耳を傾ける羅漢像は喜怒哀楽の表情豊かな親しみやすい姿をしている。無漏洞の奥に岩にはめ込むように築かれた本堂は、火災で焼失した後に1969年に再建されたものだ。境内には羅漢像や室町時代に納められた千体地蔵など3千数百体の石仏がある。2014年には日本最古の五百羅漢として、境内の全ての羅漢像が国の重要文化財に指定された。

　この由緒ある寺を守るのは、父の後を継ぐため40歳で出家した尼僧の太田英華さんだ。その説明によれば、無漏洞とは「煩悩のない境地」を意味する。

「心を静めて向き合えば、羅漢様が語り掛けてくるはずです。それを感じ取ってほしい」と話していた。

官兵衛が築いた中津の城下町

　耶馬渓を流れ下った山国川は、周防灘へと注ぐ河口付近で二つに分かれる。その一方の中津川のほとりに中津城を築いたのは、豊臣秀吉の九州平定後、豊前国6郡を与えられた

黒田孝高、通称・黒田官兵衛だ。中津は豊前国のほぼ中央に位置し、瀬戸内海へ通じる周防灘に面した交通の要所。官兵衛は中津川を天然の堀として城を築き、港や町割を整えた。城の周辺には、官兵衛が姫路や京から連れてきた商人たちが住んだ姫路町、京町といった地名が今も残っている。

2014年のNHK大河ドラマ『軍師官兵衛』の放映により、中津には多くの観光客が訪れて、かつてないにぎわいを見せている。官兵衛、長政の2代、関ケ原の戦いの勲功で筑前国に移るまで13年間にわたりこの地を治めた黒田氏だが、これまで中津での評判は決して高くなかったという。秀吉の命にそむいた宇都宮鎮房を謀殺し、400年間この地を守ってきた宇都宮氏を滅ぼした敵という見方が多かった。ところが10年ほど前、中津の町の基盤を築いた黒田官兵衛を顕彰する会が発足し、その動きは大河ドラマの誘致へと発展。8年越しの努力が実を結んで、これを機に地元でも黒田氏の功績が再評価されている。

黒田氏の後、細川氏、小笠原氏、奥平氏と続く領主の居城となった中津城の城趾には、1964（昭和39）年に奥平家歴史資料館として天守閣が建造されており、黒田時代の石垣が残る。本丸の南側では穴太積みの技法で築いた自然石の石垣が見られ、北側には上流の遺跡から持ち出した四角い加工石を使った石垣が残り、後の細川時代の石垣との境目がくっきりと見える。また城下の寺町にある合元寺には、宇都宮家の家臣が討ち死にした際の刀傷が今もはっきり刻まれている。

中津名物と言えば鱧(はも)。夏の食材の印象が強いが、中津では1年を通じて食す。目の前の海で捕れる新鮮な鱧は刺身の他、冬にはしゃぶしゃぶ、土瓶蒸しに。鱧しゅうまい、鱧かつ丼など幅広い料理が楽しめる

城下にはもう一つ、中津を訪れたらぜひ足を運びたい場所がある。城の東側、下級武士の住まいがあった場所に残る福澤諭吉の旧居だ。大坂の中津藩蔵屋敷で生まれた諭吉は1歳6カ月で父と死別して帰郷し、蘭学を学ぶために19歳で長崎へ出るまで中津で過ごした。木造茅葺きの住居の裏手には諭吉が勉強部屋にしていたという土蔵があり、隣に建つ記念館では遺品や書簡などの資料を見ることが出来る。慶応義塾を開いて教育と文明開化に尽くした諭吉は、郷里中津でも中津市学校の開設に尽力。また競秀峰付近の山地が売りに出されたのを知ると、一帯の土地を購入してその景観を守った。中津の人々が誇ってやまない郷土の先人だ。

福澤諭吉が青年時代を過ごした旧居

▼取材協力クラブ

中津ライオンズクラブ（衛藤研司会長／55人）＝1959年4月17日結成／スポンサー：日田ライオンズクラブ／青少年健全育成や、高齢者や障害者の福祉施設との交流に重点的に取り組んでいる。小学生が1泊2日で郷土の歴史や文化を学ぶ「たんけん中津」は中津ライオネスクラブの活動として始まったもので、現在は市教育委員会が企画してクラブが資金を助成している。国際交流にも力を入れ、ブラザー・クラブである韓国・釜山セントラル、台湾・台南県中央の両ライオンズクラブを毎年訪問して交流を深めている。

読者から──11月号

■冬の訪れが気になる

東北の早いところでは11月になると、冬支度に入ります。今年は台風や豪雨、火山噴火など、災害が各地で起こりました。私の住む山形で最低気温がひと桁を記録した日には、こういった被災地域に暮らす方々が気になります。東日本大震災で被災された方々が、寒冷に耐えて復興に取り組んでいる姿とオーバーラップするのです。が、悲嘆にくれるばかりでは前進することは難しく、周囲から物心の協力を求めてばかりでは限度があります。とはいえ、ライオンズのメンバーが笑顔で奉仕する写真がライオン誌に掲載されるとホッとするものです。

山形霞城ライオンズクラブ●山本脩彰

■GMTの活動を理解

11月号から始まった新企画の「インタビュー」記事を読み、GMTについてよく知ることが出来た。現在の日本のライオンズクラブの状況を踏まえて活動しているGMTの大切さを感じると共に、その目的について勉強になった。GMTの目標は会員増強だが、その先にあるのは奉仕活動の推進なのだという言葉を見て、霧が晴れたような気がした。時代に合ったライオンズクラブの在り方を模索しつつ、GMTの活動を推進していかなくてはならない。

熊本県・免田ライオンズクラブ●那須弘紹

■読後のライオン誌の有効活用

新しく会員を勧誘するには、このライオン誌が一番役に立つと思います。各ライオンズクラブのメンバーが読み終わったライオン誌を、勧誘に有効活用すべきだと思います。

兵庫県・柏原ライオンズクラブ●上田棟次郎

■獅子吼の文章に感服

神奈川県・横浜中央ライオンズクラブ所属のライオン東都宏が「獅子吼」に投稿された「風を読もう」の文章力、知識量には驚かされた。うらやましいし、面白かった。「獅子吼」はメンバーの生の声が聞けるので、必ず読むようにしている。

三重県・四日市みたきライオンズクラブ●山下和彦

■分布図を利用して説明

10月29日に当クラブの被災地支援について報告会がありました。その際、ライオン誌に掲載されている日本ライオンズクラブ分布図のページを利用して国内クラブの状況を紹介しましたが、非常に便利でした。

秋田県・太田秋田ライオンズクラブ●大信田哲男

読者プレゼント

■ケヤキのぐい呑みを5人の読者に

今月号「東日本大震災復興だより」（38～39ページ）で紹介した、岩手県大槌町の復興支援団体・和RING-PROJECTのオリジナル木工品「ケヤキのぐい呑み」を、5人の読者にプレゼントします。大槌町のケヤキ材を使ったぐい呑みで、ケヤキの美しい木目を生かした仕上がりとなっており、自然木ならではの風合いを楽しむことが出来ます。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「ぐい呑み」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は1月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階　ライオン誌事務所
＊オンライン応募はライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）の「ライオン誌日本語版」→「プレゼント応募」から。

〈56ページクイズの解答〉 第1問=b.／第2問=c.／第3問=b.／第4問=a.／第5問=b.

もう一度読みたい「あの記事」

●1980年12月号

『ライオン誌』バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

「おじいちゃん、ここへ座んなよ」

石川智恵子（愛知県・名古屋中ライオンズクラブ発行『青少年非行化防止論文集』より抜粋）

ローカル線のK線沿線には幾つか高等学校があり、登下校時に乗り合わせようものなら、さながら学生列車と言いたくなるほど大変なにぎやかだ。

去年の5月、正午過ぎに古里の駅から電車に乗った。車内は空いていて、立っている人は誰もいなかったが、私の前の席には3人の女子高生がおり、ペチャクチャしゃべりながら、それぞれポップコーンの入った紙袋をひざに乗せて、むしゃむしゃ食べていた。他の乗客のことなどお構いなし、まるで幼児のような遠慮のなさである。ちりちりにかけたパーマ。引きずるように長いスカート。胸元にのぞくネックレス。全く乱れた服装の3人だった。その上、聞くに耐えないようなことを大声で話していた。乗客の目があっても、ケロリとしたものである。

この3人の少女と同じ制服を着た少女が、少し離れた入り口に近い座席に4、5人並んで座っていた。この少女たちは3人に比べると、格段にお行儀がいい。目をつぶって英単語を暗記している子。教科書や参考書を黙読している子。いかにも学生らしい、微笑ましい姿である。

そしてK駅から3～4駅過ぎた駅のことであった。多くの人が乗り込んできて、座席は全て埋められ、立つ人も出てきた。そして最後に一人の老人が乗り込んできた。もちろん席があるはずはない。すぐそばにテスト勉強中の少女たちがいたが、席を立とうとしない。私が立とうかと腰を上げかけた時だった。「おじいちゃん、ここへ座んなよ」と明るい大きな声が上がった。見るとポップコーンを食べていた3人の少女たちだった。そしてそのうちの1人が老人の手を取って自分の席へ連れて行き、「はい、ここだよ」と腰をかけさせた。老人は何度も頭を下げてから席に着いた。全くあっという間の出来事だった。

私はきつねにつままれたような気持ちになった。行儀の良い女子学生も、一般の人も、知らない振りをしている中で、今まで乗客からひんしゅくを買っていた少女たちが老人に温かい手を差し伸べようとは……。

理想的と言いたい女子学生たちは、依然ノートや教科書に視線を落としたまま、自分の周囲で何が起ころうと我関せずといった態度である。その冷たさに私は腹が立ってきた。その代わり、心の中で不良学生と決めてかかっていた3人の女子学生に対して申し訳ない気持ちになり、人間には外見にかかわらず温かい思いが流れていることを思い知らされたのである。

多分、この3人の少女たちは大きな不満を持っているのだろう。そして、もしその不満が学校や教師にあるとしたら、学習についていけないための不満ではないのだろうか。勉強についていけないということは、彼女たちには最大の劣等感であるに違いない。それに負けまいとする力が、服装や言語や行動に出ているのではないだろうか。

テストの点数だけを重視した、知育偏重の教育を続けたのでは、無視された学生たちが反感を持ち、ぐれていくのは明らかだ。テストで高得点をとることより、人間として思いやりのある、温かい人柄を育てていくことの方が、将来の日本にとって必要なのではないだろうか。

ライオン誌例会のススメ
―次の例会ですぐ使える情報

ライオンズ百科

■ユニフォームいろいろ

日本でもユニフォームを作っているクラブはあるが、東洋・東南アジア諸国のライオンズが身に着けているユニフォームはとてもカラフルだ。写真は仁川フォーラムの開会式会場前で見掛けた韓国のライオンたちの記念撮影。このショッキング・ピンクのジャケットは、女性はともかく日本の男性メンバーにはなかなか着こなせないのではないだろうか。中には国や地区のユニフォームを用意しているところもあり、タイは緑、中国は鮮やかな赤や青のジャケットと色とりどり。色にもお国柄が表れるのだろうか。

2月号予告

特集 100周年記念奉仕チャレンジ

2017年に迎える国際協会創設100周年に向けて、今年度から100周年記念奉仕チャレンジがスタートした。青少年、視力、食料支援、環境の四つの奉仕分野で1億人に奉仕しようというチャレンジの内容を詳しく紹介する。

クイズ de 例会

〈第1問〉第53回東洋・東南アジア・ライオンズ(OSEAL)フォーラムが開催された都市は？

a. ソウル　b. 仁川　c. 釜山

〈第2問〉次のうち、OSEAL地域に所属していない国は？

a. ラオス　b. グアム
c. インドネシア

〈第3問〉2015～17年国際理事の日本からの立候補者は何人？

a. 1人　b. 2人　c. 3人

〈第4問〉「プライド」には「誇り」の他にどんな意味がある？

a. ライオンの群れ
b. ライオンの家族
c. ライオンの咆哮

〈第5問〉昨年度、LCIFへの献金総額が最も多かった国は？

a. 韓国　b. 日本　c. 台湾

★回答は54㌻下

この日・この月

1月17日は「防災とボランティアの日」、またこの日を含む15日～21日は「防災とボランティア週間」。1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では延べ約138万人のボランティアが活動し、「ボランティア元年」の言葉が生まれた。これを踏まえて、同年12月の閣議決定で設けられたもので、災害時のボランティア活動や自主的な防災活動について認識を深め、災害への備えの充実強化を図るのが目的だ。

災害発生時にボランティアに十分な力を発揮してもらうためには、被災地側の「受援力」を高めておくことも重要だ。そのための平時の取り組みとしては、地域の防災マップの作成、防災訓練への参加、支援が必要な時の窓口の決定と把握、地域の人同士のつながりを築いておくことなどがある（内閣府パンフレット「地域の『受援力』を高めるために」より）。

今月号の記事から

今月号には、来日されたジョー・プレストン国際会長の公式訪問でのスピーチと質疑応答を収録しました。ライオンズとして誇りを高めていくためには会員は何をすべきか、熱心に訴えた国際会長の言葉を踏まえて、クラブの現状を再点検してみてはどうでしょう。

編集室

クラブ・ライフを楽しもう

ライオン誌
日本語版委員長
◉
佐藤義彦
（京都）

時折、「ライオンズクラブは社会奉仕を目的として設立されたものであるから、社会奉仕以外の活動は慎むべきである」といった主張をされるメンバーに出会うことがある。果たしてそうだろうか？

そもそも、「クラブ」とはどのようなものなのであろうか？広辞苑をひもとくと、「クラブ・CLUB」という語には多様な意味があるようなのである。「ゴルフなどで、ボールを打つ棒」だとか、「トランプの札の名」「クローバーの葉を図案化し、黒く描いたもの」などはここでは関係がないので、前に戻って「CLUB・倶楽部」の項を見てみると、「政治・社交・娯楽その他共通の目的によって集まった人々の団体。また、その集合所」とある。

ライオンズクラブは、「われわれは奉仕する」を共通のモットーとして集まったメンバーの団体であるということは事実だから、立派に「クラブ」であるということが出来る。

では、ライオンズクラブは社会奉仕だけを目的として活動しなければならないのであろうか？『ライオンズ必携』でライオンズクラブ会則第2条を見てみると、「本クラブの目的は次のとおりとする」との柱書に続いて、(a)から(f)までの6項目にわたっていろいろな事柄が記載されている。社会奉仕だけを目的として設立されたライオンズクラブも存在しているだろうけれども、社会奉仕以外に、例えば「友情、親善、相互理解の絆によって会員の融和を図る」ことをも目的とするライオンズクラブが存在してもよいわけである。

クラブ・メンバーのみならず、その家族共々仲良く一緒に食事をしたり、外国旅行を楽しむクラブがあってもいいし、配偶者を有する者が入会する時は、同時にその配偶者も家族会員としてクラブに迎えて、家族と共にクラブ・ライフを楽しむことを目的とするクラブがあってもいいわけである。

クラブ・ライフを多方面に楽しもうではありませんか。

Official publication of Lions Clubs International

EXECUTIVE OFFICERS
President Joe Preston, Dewey, Arizona, USA; Immediate Past President Barry J. Palmer, North Maitland, Australia; First Vice President Jitsuhiro Yamada, Minokamo-shi, Gifu-ken, Japan; Second Vice President Robert E. Corlew, Milton, Tennessee, USA. Contact the officers at Lions Clubs International, 300 W. 22nd St., Oak Brook, Illinois, 60523-8842, USA.

DIRECTORS
Second year directors
Fabio de Almeida, Guarulhos SP, Brazil; Lawrence A. "Larry" Dicus, Whittier, California USA; Roberto Fresia, ; Alexis Vincent Gomes, Pointe-Noire, Republic of Congo; Cynthia B. Gregg, Belle Vernon, Pennsylvania, USA;Byung-Gi Kim, Korea; Esther LaMothe, Jackson, Michigan, USA; Yves Léveillé, Howick, Quebec, Canada; Teresa Mann, Hong Kong, China; Raju V. Manwani, Mumbai, India; William A. McKinney, Highland, Illinois, USA; Michael Edward Molenda, Hastings, Minnesota, USA; John Pettis, Jr., Merrimac, Massachusetts, USA; Carl Robert Rettby, Neuchatel, Switzerland; Emine Oya Sebük, Istanbul, Turkey; Hidenori Shimizu, Gunma, Japan; Dr. Steven Tremaroli, Huntington, New York, USA

First year directors
Svein ystein Bernsten, Hetlevik, Norway; Jorge Andrés Bortolozzi,, Coronda, Argentina; Eric R. Carter, Auckland, New Zealand; Charlie Chan, Singapore, Singapore; Jack Epperson, Dayton, Nevada, USA; Edward Farrington, Milford, New Hampshire, USA; Karla Harris, South Milwaukee, Wisconsin, USA; Robert S. Littlefield Ph.D., Moorhead, Minnesota, USA; Ratnaswamy Murugan,, Kerala, India; Yoshinori Nishikawa, Himeji, Hyogo, Japan; George Th. Papas, Limassol, Cyprus; Jouko Ruissalo,, Helsinki, Finland; N.S. Sankar, Chennai, Tamil Nadu, India; A.D. Don Shove, Everett, Washington, USA; Kembra L. Smith, Decatur, Georgia, USA; Joong-Ho Son, Daejeon, Republic of Korea; Linda L. Tincher, Riley, Indiana, USA.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

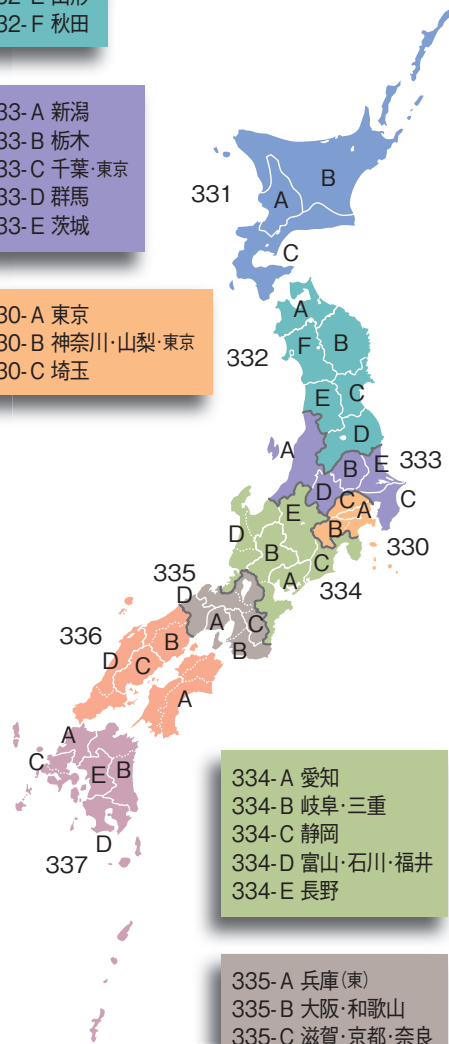
ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　清水 英徳
国際理事　西川 義規
委員長　寺越 慎一（336複合地区）
編集長　佐藤 義則（332複合地区）
委員　久津間康允（330複合地区）
委員　中嶋　辛（331複合地区）
委員　塚田 雅二（333複合地区）
委員　石井 博之（334複合地区）
委員　佐藤 義彦（335複合地区）
委員　井村 一男（337複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

日本ライオンズクラブ分布図

2014.11.30　eMMR ServannA報告による

地区	クラブ数	会員数	増減	男女別会員数 男性	女性（割合）	家族会員数 子会員	増減	男性	女性
330-A	203	6,194	627	4,626	1,568（25.3）	1,512	381	466	1,046
330-B	166	4,925	273	4,099	826（16.8）	592	163	159	433
330-C	91	2,440	98	1,989	451（18.5）	347	64	102	245
330 計	460	13,559	998	10,714	2,845（21.0）	2,451	608	727	1,724
331-A	74	2,735	119	2,296	439（16.1）	370	83	74	296
331-B	87	2,700	113	2,287	413（15.3）	335	101	46	289
331-C	52	1,883	91	1,627	256（13.6）	230	48	69	161
331 計	213	7,318	323	6,210	1,108（15.1）	935	232	189	746
332-A	65	2,092	126	1,661	431（20.6）	317	77	68	249
332-B	53	2,345	107	1,601	744（31.7）	706	66	96	610
332-C	71	1,741	68	1,306	435（25.0）	392	55	78	314
332-D	73	2,426	99	1,916	510（21.0）	461	55	101	360
332-E	56	1,971	145	1,617	354（18.0）	282	99	44	238
332-F	46	1,430	52	1,050	380（26.6）	312	42	45	267
332 計	364	12,005	597	9,151	2,854（23.8）	2,470	394	432	2,038
333-A	75	3,349	63	2,618	731（21.8）	707	29	158	549
333-B	52	1,629	44	1,089	540（33.1）	425	10	98	327
333-C	136	3,912	87	2,986	926（23.7）	735	46	263	472
333-D	52	2,297	51	1,708	589（25.6）	587	25	135	452
333-E	79	4,052	327	2,855	1,197（29.5）	1,259	277	318	941
333 計	394	15,239	572	11,256	3,983（26.1）	3,713	387	972	2,741
334-A	120	6,900	739	4,777	2,123（30.8）	2,117	685	436	1,681
334-B	81	5,480	234	3,570	1,910（34.9）	2,274	149	539	1,735
334-C	82	3,807	174	3,029	778（20.4）	727	119	93	634
334-D	98	6,101	174	3,946	2,155（35.3）	2,260	106	389	1,871
334-E	52	2,584	156	1,897	687（26.6）	700	110	195	505
334 計	433	24,872	1,477	17,219	7,653（30.8）	8,078	1,169	1,652	6,426
335-A	85	2,233	79	1,797	436（19.5）	175	3	19	156
335-B	175	6,609	455	4,977	1,632（24.7）	1,273	344	274	999
335-C	119	4,047	224	3,504	543（13.4）	246	179	51	195
335-D	65	2,021	57	1,662	359（17.8）	230	54	67	163
335 計	444	14,910	815	11,940	2,970（19.9）	1,924	580	411	1,513
336-A	149	6,448	187	4,860	1,588（24.6）	1,184	114	209	975
336-B	98	3,217	120	2,742	475（14.8）	221	40	38	183
336-C	100	3,295	60	3,054	241（ 7.3）	28	4	7	21
336-D	96	3,281	71	2,887	394（12.0）	204	15	19	185
336 計	443	16,241	438	13,543	2,698（16.6）	1,637	173	273	1,364
337-A	115	5,174	468	4,026	1,148（22.2）	698	395	129	569
337-B	69	3,012	497	2,206	806（26.8）	775	461	146	629
337-C	82	3,920	360	2,764	1,156（29.5）	1,046	317	289	757
337-D	80	2,389	96	2,134	255（10.7）	83	49	13	70
337-E	59	1,697	93	1,456	241（14.2）	107	35	35	72
337 計	405	16,192	1,514	12,586	3,606（22.3）	2,709	1,257	612	2,097
総計	3,156	120,336	6,734	92,619	27,717（23.0）	23,917	4,800	5,268	18,649

世界のライオンズ

2014.11.30　国際協会集計

国または領域………210　クラブ数………46,731
会員数………1,390,104　会員数増減……29,988

ライオン誌日本語版出版物 注文書

ライオンズクラブ入門

クラブ運営の基礎知識

リーダーシップを養う

『ライオン誌』創刊号復刻版

ライオンズ力を高める

LCIF早分かり

ライオニズムよ永遠に

ウィ・サーブ

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jp宛てにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

ライオン誌日本語版出版物　注文書

- ●ライオンズスクール初級編『ライオンズクラブ入門』 ……………… □部
- ●ライオンズスクール中級編『クラブ運営の基礎知識』 ……………… □部
- ●ライオンズスクール上級編『リーダーシップを養う』 ……………… □部
- ●『ライオンズ力を高める』成り立ちから組織、運営まで分かる簡単ガイド …… □部
- ●『LCIF早分かり』世界ナンバー1 NGOの簡単ガイド ……………… □部
- ●『ライオニズムよ永遠に』メルビン・ジョーンズとその時代 ……………… □部
- ●『ウィ・サーブ』日本ライオンズ半世紀の航跡 ……………… □部
- ●『ライオン誌』日本語版創刊号復刻版 ……………… □部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

ライオン誌1月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費78円
2014年(平成26年)12月20日発行　毎月1回20日発行　第57巻第7号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　凸版印刷株式会社

高田大隅つどいの丘商店街

●カフェフードバー わいわい●和風スナック 竹林●おやこの広場 きらりんきっず●公文式高田教室●運転代行トマリー●CPサロン ピネッド●LOOP●おやつと駄菓子の店 beach de Café●高田駅前 カンナ●陸丸●パッケージプラザ ヨネザワ●陸前高田まちづくり協働センター●一般社団法人 SAVE TAKATA

高田大隅つどいの丘商店街
岩手県陸前高田市高田町字大隅93-1
http://rt-tsudoinooka.com/
https://www.facebook.com/takatatsudoi

高田大隈つどいの丘商店街はLCIFの東日本大震災指定交付金を受けました